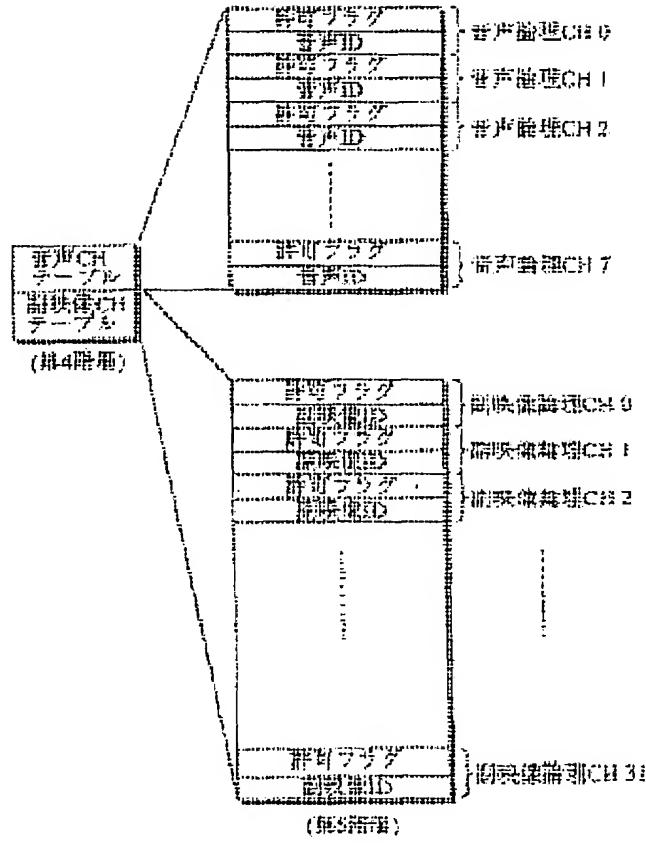


Abstract of JP 2002245753 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a recording method for a recording medium, the reproducing device and the reproducing method by which a plurality of sub-data are easily managed among a plurality pieces of video data.

SOLUTION: This method comprises the step of preparing data and the step of recording the prepared data in the recording medium. The data include a plurality pieces of video data and management information. A pieces of moving picture data and a plurality pieces of sub-data to be alternatively reproduced simultaneously therewith are interleaved in each pieces of video data, and an ID is attached to the sub-data.; The management information has route information specifying a program chain indicating the video data to be successively reproduced and a table in which the logical number of the sub-data and the ID of the sub-data are made correspond to the video data indicated by the program chain.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-245753

(P2002-245753A)

(43)公開日 平成14年8月30日 (2002.8.30)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード*(参考)
G 1 1 B 27/00		G 1 1 B 27/00	D 5 C 0 5 2
20/10	3 1 1	20/10	3 1 1 5 C 0 5 3
	3 2 1		3 2 1 Z 5 D 0 4 4
20/12		20/12	5 D 1 1 0
	1 0 3		1 0 3
		審査請求 有	請求項の数 5 O L (全 32 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2001-358557(P2001-358557)
(62)分割の表示 特願平9-530818の分割
(22)出願日 平成9年4月3日(1997.4.3)
(31)優先権主張番号 特願平8-83686
(32)優先日 平成8年4月5日(1996.4.5)
(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000005821
松下電器産業株式会社
大阪府門真市大字門真1006番地
(72)発明者 山内 一彦
大阪府寝屋川市石津南町19番1-407号
(72)発明者 小塙 雅之
大阪府寝屋川市石津南町19番1-1207号
(72)発明者 津賀 一宏
兵庫県宝塚市つづじが丘9番33号
(74)代理人 100090446
弁理士 中島 司朗

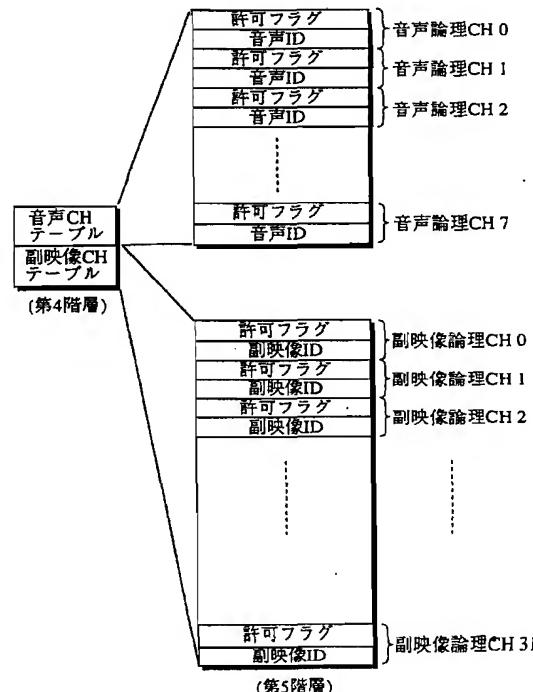
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 動画データとともに複数チャネルの音声データ、副映像データが記録された記録媒体の記録方法、その再生装置、再生方法

(57)【要約】

【課題】ビデオデータ間で複数の副データを容易に管理することができる記録媒体の記録方法、その再生装置及びその再生方法を提供する

【解決手段】データを作成するステップと、作成したデータを記録媒体に記録するステップとを有し、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に選一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と副データのIDとを対応させたテーブルを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 記録媒体の記録方法であって、データを作成するステップと、作成したデータを記録媒体に記録するステップとを有し、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に逐一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であることを特徴とする記録方法。

【請求項2】 前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録されていることを特徴とする請求項1記載の記録方法。

【請求項3】 記録媒体に記録されたデータを再生する再生装置であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に逐一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であり、前記再生装置は、

前記記録媒体からデータを読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と番号保持手段の論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定手段と、読出手段によって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された動画データおよび選択手段によって選択された副データを再生する再生手段とを備えることを特徴とする再生装置。

【請求項4】 前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録され、前記再生装置は、前記制御情報中のコマンドにより指示される論理番号を保持手段に保持することを特徴とする請求項3記載の再生装置。

【請求項5】 記録媒体に記録されたデータを再生する再生方法であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に逐一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、

前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、

前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であり、前記再生方法は、

前記記録媒体からデータを読み出す読出手段と、再生装置内の特定レジスタに予め定められた論理番号を設定する設定手段と、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と前記特定レジスタに保持された論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定手段と、読出手段によって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、

読み出ステップによって読み出された動画データおよび選択ステップによって選択された副データを再生する再生ステップとを有することを特徴とする再生方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マルチメディアデータが記録された記録媒体の記録方法、再生装置および再生方法であって、特に映画アプリケーションにおける再生機能の向上に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、音声情報、動画情報を記録し再生する光学式情報記録媒体及びその記録再生装置としてはレーザディスクやビデオCDが知られている。レーザディスクは、直径約30cmの光学式ディスクに約1時間のアナログ動画データの記録を実現したものであり、映画や音楽ビデオの記録媒体として盛んに利用されてきた。ところが、レーザディスクは、持ち運びや収納を考えると適切な大きさではないため、さらにコンパクトな記録媒体が求められてきた。

【0003】ビデオCDは、データ量の大きな動画像をMPEG (Moving Picture ExpertsGroup) 方式と呼ばれる高圧縮率なデジタルデータ圧縮方式で記録するにこにより、本来音声記録用ディスクであった直径12cmのCD (Compact Disc) での動画像の記録再生を実現したものである。ビデオCDは、コンパクトなディスクサイズを実現した反面、動画の解像度が約352×240画素でしかなかった。

【0004】しかしながら上記のレーザディスク及びビデオCDは、音声及び字幕について、次の制約がある。すなわち音声情報は1チャネルしか記録されないので、複数国の言語に対応できない。字幕は動画の一部として記録されるので、やはり複数国の言語に対応できない。例えば、日本語版、英語版、仏語版、独語版などの異なる音声又は字幕を同じ動画情報に対して記録できない。

【0005】また、劇場版、ノーカット版、TV放映版などバージョンの異なる映画がある場合に、よほど短編の映画であれば全バージョンの映画を1枚のディスクに記録することが可能であるが、通常の1~2時間程度の映画を1枚のディスクに記録することは不可能だった。また、レーザディスクでは、約1時間のアナログ動画情報に加えて、音声情報としてモノラル4CHが記録可能になっている。

【0006】レーザディスクは、主として映画アプリケーションの記録に用いられることが極めて多い。ところが、通常の映画は、2時間程度の上映時間であり、また複数バージョンが存在する。複数バージョンとは、劇場公開版、TV放送版、他言語（音声、字幕）への吹き替え版などである。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、レーザ

ディスク（登録商標）に記録できるアナログ動画情報は約1時間なので、これらの複数バージョンの映画を記録することができない。さらに、仮に、短い動画情報を複数記録するとともに各動画情報に複数チャネルの音声チャネルを付加して記録したとしても、次のような問題が発生する。

【0008】第1に、動画情報は重複して記録することになるので、記録効率が極めて悪くなる。第2に、字幕は動画の一部として記録されるので複数の字幕を持たせるためには、異なる字幕をもつ同じ動画情報を複数記録することになる。さらに第3に、第2の場合に、ある言語の字幕をもつ動画情報を再生している際に、ユーザが別の言語の字幕をもつ動画に変更したいと思っても、はじめから再生をやり直すというユーザ操作が必要である。つまり、同じ映画であっても、再生を継続したまま字幕のみを変更することができない。第4に、複数の動画情報の音声チャネル数が異なっていたり、どの音声チャネルがどの言語であるかその割り当てが異なっている場合、動画情報を変更する都度、ユーザ操作により所望する言語の音声チャネルを変更しなければならない。

【0009】本発明の目的は、主たる動画データと音声や字幕などの複数の副データとからなる複数のビデオデータ記録でき、かつビデオデータ毎に副データのチャネル数やチャネル割当が異なっていても、ビデオデータ間で副データを容易に管理することができる記録媒体の記録方法、その再生装置及びその再生方法を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため30 本発明の記録媒体の記録方法は、データを作成するステップと、作成したデータを記録媒体に記録するステップとを有し、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に扱一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータ40 を示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であるように構成される。

【0011】ここで、前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動

画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録されている。

【0012】本発明の再生装置は、記録媒体に記録されたデータを再生する再生装置であって、上記した記録媒体からデータを読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と番号保持手段の論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定手段と、読出手段によって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された動画データおよび選択手段によって選択された副データを再生する再生手段とを備える。

【0013】また、前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録され、前記再生装置は、前記制御情報中のコマンドにより指示される論理番号を保持手段に保持するよう構成してもよい。

【0014】本発明の再生方法は、記録媒体に記録されたデータを再生する再生方法であって、前記記録媒体からデータを読み出す読出手段と、再生装置内の特定レジスタに予め定められた論理番号を設定する設定ステップと、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と前記特定レジスタに保持された論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定ステップと、読出手段によって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択ステップと、読出手段によって読み出された動画データおよび選択ステップによって選択された副データを再生する再生ステップとを有する。

【0015】

【発明の実施の形態】<マルチメディア光ディスクの物理的な構造>まず最初に、本実施例におけるマルチメディア光ディスク（以下DVD:Digital Versatile Disk）の物理的な構造を説明する。図1は、本実施例におけるDVDの外観、断面、拡大した断面及びピット形状を示す図である。

【0016】同図の外観図においてDVDの直径は、CDと同様に約12cmである。同図の断面図においてDVD107は、図面の下側から厚さ0.6mmの第一の透明基板108、その上に金属薄膜等の反射膜を付着した情報層109、第二の透明基板111、情報層109と第二の透明基板111の間に設けられ両者を接着する接着層110から構成され、さらに必要に応じ第二の透

明基板111の上にラベルの印刷を行う印刷層112が設けられる。

【0017】印刷層112はDVD107において必須のものではなく、必要がなければこれをつけず第二の透明基板111をむきだしにしても良い。図1で、再生用の光ビーム113が入射し情報の再生を行う下側の面を表面A、印刷層112が形成される上側の面を裏面Bとする。第一の透明基板108の情報層109と接する面は成形技術により凹凸のピットが形成され、このピットと長さと間隔を変えて情報の記録を行っている。つまり情報層109には第二の透明基板108の凹凸のピットが転写される。同図のピット形状のように、各ピットの長さが $0.4\mu\text{m}$ ～ $2.13\mu\text{m}$ であり、半径方向に $0.74\mu\text{m}$ の間隔を空けて螺旋状に列設され、一本の螺旋トラックを形成している。このピットの長さは従来例であるCDの場合に比べて短くなりピット列で形成する情報トラックのピッチであるトラックピッチも狭く構成され、面記録密度が向上している。

【0018】また、第一の透明基板108のピットが形成されていない表面A側は平坦な面となっている。第二の透明基板は補強のために用いられるもので、第一の透明基板108と同じ材質で、厚さも同じ0.6mmの両面が平坦な透明基板である。そして、図示しない光ヘッドからの光ビーム113は下側に図示する表面Aから照射され、情報層109の上で集束し、光スポット114として情報層109の上に結像し、ピットのある部分では反射光の位相が周囲と異なるため、光学的干渉が生じて反射率が低下し、ピットのない部分では干渉が生じないため、反射率が高くなり、その結果反射率変化として情報の再生が行われる。また、DVD107の光スポット114はNAが大きくλが小さいため、前記CDでの光スポットに比べ直径で約1/1.6になっている。これによりCDの約8倍である約4.7GBの記録容量を持つ。

<DVD全体のデータ構成>次に、DVDに記憶される全体のデータ構造を説明する。

【0019】図2は、DVDの全体のデータ構造図である。DVDは、一本の螺旋状のトラック上でディスク中心から外周にかけて、大きく分けてリードイン領域、ボリューム領域、リードアウト領域とを有する。「リードイン領域」は、ディスク再生装置の読み出し開始時の動作安定用データ等が記録される。

【0020】「リードアウト領域」は、ディスク再生装置に記録情報の終端を示すための領域である。「ボリューム領域」は、アプリケーションを構成する種々のデータを記録するための領域であり、物理的には螺旋トラック上に一次元配列として極めて多数の論理ブロック（セクタとも呼ばれる）からなる。各論理ブロックは、2kBでありブロックナンバー（セクタアドレス）で区別される。この論理ブロックサイズは、再生装置による

7
最小読み出単位である。

【0021】このボリューム領域は、さらにボリューム管理領域とファイル領域とからなる。「ボリューム管理領域」は、先頭ブロックからディスク全体の管理に必要なブロック数だけ確保され、例えば、ISO(International Standards Organization)13346などの規格に従って、複数のファイルのそれぞれのファイル名と、各ファイルが占めている論理ブロック群のアドレスとの対応づけを示す情報が記録される。

【0022】「ファイル領域」には、少なくとも1つのビデオタイトルセットとビデオマネージャとが記録される。ビデオタイトルセットもビデオマネージャも、本実施例では説明の便宜上それぞれ1つのファイルとして扱うけれども、実際には、トランク上に連続する複数ファイルに分割されて記録される。例えば映画を格納する場合などファイル容量があまりにも膨大になるので、再生装置における管理を容易にするためには連続する複数ファイルに分割して記録することが望ましいからである。

【0023】各「ビデオタイトルセット」は、個々のタイトルセット記録用であり、具体的には、インタラクティブ映画などのアプリケーションの部分的な動画、音声及び静止画を表す複数のビデオオブジェクト（以下VOBと略す）と、それらの再生制御用の情報とが記録される。ここで、タイトルセットは、例えば、同じ映画でノーカット版、劇場公開版、テレビ放映版など3バージョンがあった場合、バージョン別の3タイトルの総称である。同じ映画でありながら、複数バージョンが存在するのは映画の興行上の理由や公序良俗上の理由によるが、制作者にとっては1枚のディスクに複数バージョンの映画を記録することが強く要請されていた。これを実現するため、本実施例では各バージョンの映画は、複数のVOBの組み合わせにより実現されている。この場合、異なるバージョンのタイトル間で共有可能なVOBと、共有できない個別のVOBとが存在する。ビデオタイトルセットには、共有部分のVOBとバージョン個別のVOBが記録される。

【0024】また、映画に限らずインタラクティブ映画など複数のインタラクティブアプリケーションを記録できるように複数のビデオタイトルセットが記録可能になっているのは、DVDの約4.7GBとという膨大な記録容量により初めて実現されるものである。「ビデオマネージャ」は、ディスク全体のタイトルセットの管理用であり、具体的には複数のVOBと、それらの再生制御用の情報とが記録される。ビデオマネージャのデータ構成は、ビデオタイトルセットと同様であるが、特別な用途に使用される点が異なっている。つまり、ビデオマネージャはディスク全体のタイトルセットを管理するために用いられる。そのため、ビデオマネージャには、システムメニュー用のVOB（群）が記録されている。システムメニューは、再生装置の電源投入直後の再生さ

れ、又はタイトル再生中に一時的に呼び出されて再生されるメニューであり、ユーザ所望のタイトルセットを選択したり、複数の音声チャネル及び副映像データのうち再生すべきチャネルを設定／変更を行うためのメニューである。

＜ビデオタイトルセットのデータ構成（その1）＞図3は、図2中の各ビデオタイトルセットの内部構造を示す。同図に示すようにビデオタイトルセットは、複数のVOBからなるVOBセットと、それらの再生経路を制御するためビデオタイトルセット管理情報とからなる。

【0025】「VOBセット」は、タイトルセットの要素となる全てのVOB、すなわち複数タイトルで共有されるVOBと、タイトルの個別部分となるVOBとからなる。各々の「VOB」は、GOP(Group Of Picture)と呼ばれる所定時間単位の動画データ（ビデオ）と、その動画と同時に再生されるべき複数のオーディオデータと、その動画と同時に再生されるべき複数の副映像データと、これらを管理するための管理パックとがインターリーブされてなる。同図のように1つの管理パックと、20 GOPに相当する動画データと複数の音声データと複数の副映像データを含む部分をVOBユニット（VOBU）と呼ぶ。複数のオーディオデータ、複数の副映像データは、それぞれ再生装置によって選択的に再生される。

【0026】同図の「Audio A」、「Audio B」、「Audio C」のように複数のオーディオデータは、例えば日本語、英語など複数の異なる言語の音声を記録したり、男性の音声と女性の音声とを記録することができる。また同図の「SP A」、「SP B」のように複数の副映像データ30は、動画に多重表示される静止画であり、例えば複数の異なる言語の字幕を記録することができる。字幕の他に副映像データのもっと重要な用途としてメニューがある。すなわち、1つあるいは幾つかの副映像データは、インタラクティブアプリケーションやシステムメニューにおけるメニュー画像を記録するために用いられる。

【0027】管理パックは、2KBの大きさであり、VOBU毎のデータを管理する情報が格納される。この中には、副映像データのメニュー画像におけるボタン表示及びメニュー操作を制御するためのハイライト情報が含まれる。このハイライト情報は、副映像データによるメニュー画像と相俟って、VOBU単位でのインタラクティブ性を実現している。＜VOBのデータ構成＞VOBのさらに詳細なデータ構成の説明図を図4に示す。同図は、インターリーブにより多重化される前の素材と、多重化された後のVOBとを併記し、各素材がどのようにインターリーブ多重化されているかを図示してある。

【0028】同図のエレメンタリーストリーム(1)～(6)は、それぞれVOBを構成するための多重化される前の素材例である。エレメンタリーストリーム(1)は、MP50

EG2規格に準拠して圧縮された動画データであり、GOP単位にVOBUにインターリープ多重される。ここでGOPとは少なくとも1つの1ピクチャーを含む約0.5秒分の圧縮動画データである。1つのGOPは、1つのVOBUに記録される。

【0029】エレメンタリーストリーム(2)～(4)は、それぞれ上記動画データに対応する音声データ(音声A～Cチャネル)である。各音声チャネルは、動画データのGOPに時間的にほぼ対応する部分が、動画データと同じVOBUに記録される。エレメンタリーストリーム(5)、(6)は、それぞれ上記動画データに対応する副映像データ(副映像A、Bチャネル)である。各副映像データは、動画データのGOPに時間的に対応する部分が、動画データと同じVOBUに記録される。

【0030】図5は、音声データ、副映像データそれぞれのチャネル数が異なるVOBの具体例を示す。同図のVOB#1は、1つの動画に対して、次の3種類の音声と4種類の副映像とがインターリープ記録されている例である。

video1001, video1002, … : 動画データ

audio A1001, audio A1002, … : 英語音声

audio B1001, audio B1002, … : 日本語音声

audio C1001, audio C1002, … : 仏語音声

SP A1001, SP A1002, … : 英語字幕

SP B1001, SP B1002, … : 英語字幕(難聴者用)

SP C1001, SP C1002, … : 日本語字幕

SP D1001, SP D1002, … : 日本字幕(難聴者用)

このVOB#1は、例えばTV放映バージョンのタイトルの一部分であり、3か国語の音声と、2か国語の字幕とが用意されている。難聴者用の字幕とは、映画の効果音も表示する字幕である。例えば、『ドアをノックする音が聞こえる』、『窓が嵐により激しく鳴っている』等である。

【0031】同様にVOB#2は、1つの動画に対して英語音声と英語字幕とがインターリープ記録されている例である。このVOB#2は、例えばノーカット版の映画にしか存在しない部分である。またVOB#3は、1つの動画に対して英語音声、日本語音声、英語字幕、日本語字幕とがインターリープ記録されている例である。このVOB#3は、例えば劇場公開版のタイトル部分であるが、TV放映ではカットされた部分である。

【0032】VOB#4は、VOB#1と同数の音声および副映像が記録されている。さらに、同図の「video 1001」、「audio A1001」、「audio B1001」…、「SP A1001」、「SP B1001」のように図示している部分は、実際にはそれぞれの部分が2Kバイトの大きさの複数パックの集まりという形式で記録される。例えば「video 1」の部分は、1つのGOPに相当する複数パックの集合として記録される。このようにパック化している理由は、DVDにおける2Kバイトの大きさの論理ブロック(セク

タ)と同じ大きさであり、再生装置による最小の読み出し単位だからである。

＜各パックのデータフォーマット＞上記VOBU中の動画データ、音声データ、副映像データを構成する各パック及び管理パックのより詳細なデータフォーマットについて説明する。

【0033】図6～図9に示す各パックは、PES(Packetized Elementary Stream)パケットと呼ばれる1パケットを含み、パックヘッダ、パケットヘッダ、データ

10 フィールドからなり、2Kバイト長のサイズを有する。

「パックヘッダ」、「パケットヘッダ」について、MPEG2に準拠する点は説明を省略し、ここでは各パック種類を識別するための情報に関して説明する。本実施例では音声データ、副映像データ及び管理パックを識別するためにMPEG2におけるプライベートパケット1、2と呼ばれる特別のパケットを利用している。ここで、プライベートパケットとは、その内容を自由に定義してよいパケットであり、本実施例では、プライベートパケット1をオーディオデータ及び副映像データであると定義し、プライベートパケット2を管理パックであると定義している。

【0034】図6は、図4の「video 1」などの構成要素となるパック(以下、ビデオパックと呼ぶ)のデータフォーマットを示す。ビデオパックは、パックヘッダ、パケットヘッダ、GOPの一部分を載せたデータフィールドからなる。このうちパケットヘッダ中のストリームID(例えば1110 0000)は、ビデオパックであることを意味する。

【0035】図7は、図4の「audio A-1」などの構成要素となるパック(以下、オーディオパックと呼ぶ)のデータフォーマットである。オーディオパックは、パックヘッダ、パケットヘッダ、音声データを載せたデータフィールドからなる。このうちパケットヘッダ中のストリームID(1011 1101)は、プライベートパケット1であることを意味する。さらに、データフィールド中サブストリームID(10100XXXや1000XXX)の上位5ビットは音声データであることとその符号化方式とを意味し、下位3ビットはどのチャネルであるかを意味する。従って、本光ディスクには最大で8つの音声チャネルが記録されることになる。本実施例では、上記サブストリームIDの下位3ビットで区別される音声チャネル0～7を以後、音声物理チャネル0～7と呼ぶ。

【0036】図8は、図4の「SP A-1」などの構成要素となるパック(以下、副映像パックと呼ぶ)のデータフォーマットである。副映像パックは、パックヘッダ、パケットヘッダ、イメージデータを載せたデータフィールドからなる。このうちパケットヘッダ中のストリームID(1011 1101)は、プライベートパケット1であることを意味する。さらに、データフィールド中サブストリームID(同図の001XXXX)の上位3ビットは副映像デ

ータであることを意味し、下位5ビットはどのチャネルであるかを意味する。従って、本光ディスクには最大で32の副映像チャネルが記録されることになる。上記サブストリームIDの下位5ビットで区別される副映像チャネル0～31を以降、副映像物理チャネル（又はSP物理チャネル）0～31と呼ぶ。上記副映像物理チャネル及び音声物理チャネルは、副映像論理チャネル及び音声論理チャネルと区別するための名称である。論理チャネルと物理チャネルとは再生装置において1対1又は多対1にマッピングされる。

【0037】図9は、図4の管理パックのデータフォーマットである。管理パックは、パックヘッダ、PCIパケット（Presentation Control Information Packet）、DSIパケット（Data Search Information Packet）からなる。このうちパケットヘッダ中のストリームID（1011 1111）は、プライベートパケット2であることを意味する。さらにデータフィールド中のサブストリームID（0000 0000）は、PCIパケットであることを、サブストリームID（0000 0001）は、DSIパケットであることを意味する。

【0038】DSIパケットには、動画情報と音声情報との同期を管理するための情報や、早送りや巻き戻し再生などの特殊再生を実現するための情報が記録される。これら情報には、副映像データによるメニュー画像が複数のVOBUにわたって記録されている場合に、当該副映像データの先頭を含むVOBUの開始位置を示す戻り先アドレス情報を含む。この副映像への戻り先アドレスは、アプリケーション再生中に、ユーザ操作によりリモコン中の「メニュー」キーが押下された場合に、ビデオマネージャによるシステムメニューへのジャンプを行い音声や副映像のストリーム切り替えを行った後、再度アプリケーションの再生を再開するために用いられる。

【0039】PCIパケットには、ユーザインタラクションを実現するためのハイライト情報が記録される。ハイライト情報は、同じVOBU内の副映像データによるメニュー画像が再生されたときのユーザ操作に応答するための制御情報である。ここで、ユーザ操作は、再生装置のリモコンにおけるカーソルキー、テンキー、エンターキーなどによる入力操作である。

【0040】より具体的に図10に示すメニュー画像例を用いてハイライト情報を説明する。図10は、システムメニューおよびタイトルメニューにおけるメニュー画像M101～M102を例示している。例えば、メニュー画像M101では、3つのメニュー項目（0 映画A、1 映画B、2 ゲーム）を表している。このメニュー画像M101に対するハイライト情報は、ボタンが3個あること、各ボタンの選択色及び確定色、各ボタンが確定されたときに実行すべきコマンド等を表す制御情報を含む。他のメニュー画像M102～M106についても同様である。

＜管理パックのデータ構成＞図11は、管理パックのより詳細なデータ構成を階層的に示した図である。図9にも示したように、管理パックは、PCIとDSIとを含む。既に説明したようにPCIはハイライト情報を含む。

＜ハイライト情報の概略データ構成＞図11においてPCI中のハイライト情報は、ハイライト表示全般に関するハイライト一般情報、メニュー中のボタンの表示色を変更するためのボタン色情報、ボタン個別の内容を定義

10 するためのボタン情報から構成される。ここでハイライト表示とは、メニュー画像中の各ボタンに対して、選択状態、確定状態にあるボタンを他のボタンと区別して表示することをいう。これによりユーザの操作状況に応じたメニュー表示が実現される。

＜ハイライト一般情報の詳細なデータ構成＞同図においてハイライト一般情報は、ハイライト状態、ハイライト開始時刻、ハイライト終了時刻、ボタン選択終了時刻、全ボタン数、強制選択ボタン番号から構成される。

【0041】「ハイライト状態」は、当該PCIパケット20 が対象とする約0.5秒のビデオ表示区間（VOBU）においてボタンが存在するか否かや、存在した場合に前のPCIパケットのハイライト情報と同一の内容か否かなどハイライト情報の状態を示す。例えばハイライト状態は、次のような2ビットで表される。

ハイライト状態”00”：このVOBUによるビデオ表示区間ではメニュー上のボタンが存在しない。

ハイライト状態”01”：新規なボタンが存在する。

ハイライト状態”10”：直前のVOBUと同じボタンである。

30 ハイライト状態”11”：ハイライトコマンド以外、直前のVOBUと同じボタンである。

【0042】「ハイライト開始時刻」、「ハイライト終了時刻」、「ボタン選択終了時刻」は、それぞれハイライト表示の開始、終了、ボタンの選択可能な最終の時刻を示す。これらの時刻は、当該VOBの再生開始時を起算点とする。再生装置では、再生動作全般の基準クロックとして、当該VOBの再生開始時を起算点とするシステム時刻が計時される。これらの時刻により、再生装置は、副映像データによるメニュー画像の表示とメニュー画像に対するハイライト表示とを同期させることができる。

【0043】「全ボタン数」は、最大36のボタンの中で使用されているボタン数を示す。各ボタンには1から全ボタン数までのボタン番号が振られている。「強制選択ボタン番号」は、ハイライト表示が開始された時点での初期選択ボタンを示す。強制選択ボタン番号が63の場合は初期強制ボタンが存在しないことを表し、その場合は再生装置内部に保存された選択ボタン番号を使用する。

50 50 <ボタン色情報の詳細なデータ構成>図12は、ボタン

色情報及びボタン情報のより詳細なデータ構成を示す図である。

【0044】ボタン色情報は、ボタン色1情報、ボタン色2情報、ボタン色3情報から構成され、メニュー上のボタン用に3種類のボタン色群を用意している。個別のボタンには3種類のうち1つが指定される。本実施例では、使用可能なボタン数は最大36であるが、全てのボタンに異なる色変化を割り付けることは冗長であるため、各ボタンは3種類のうちのいづれかを指定するようになっている。

【0045】ボタン色1～3情報はそれぞれ選択色情報と確定色情報とから構成される。選択色情報は、ボタンが矢印キーなどにより選択された場合（選択状態にある場合）に発色させる色を示す情報である。また確定色情報は、選択状態にあるボタンが確定された際に発色させる色を示す情報である。

＜ボタン情報の詳細なデータ構成＞図12に示したようにボタン情報は、ボタン1～36情報の最大36のボタンに対する情報である。以下、ボタン1～36情報のそれそれを代表してボタンn情報と記す。

【0046】ボタンn情報は、ボタン位置情報、隣接ボタン情報、ボタンコマンドから構成される。「ボタン位置情報」は、ボタン色1～3情報のいずれを使用するかを指定するボタン色番号、メニュー画像上のボタン位置を示す座標領域（ハイライト領域）とからなる。

【0047】「隣接ボタン情報」は、メニュー画像において当該ボタンの上下左右に存在する他のボタン番号を示す情報である。これにより、ユーザの矢印キー操作によるボタン選択の移動を実現することができる。「ボタンコマンド」は、当該ボタンが確定状態になったときに実行すべきコマンドが記録される。コマンドは、再生装置に対する再生制御用の命令であり、例えば分岐を指示する命令や、複数の音声チャネルおよび副映像チャネルのどのチャネルを再生するかを指定する命令などがある。

＜ボタンコマンドの詳細＞図13は、ボタン情報中にボタン毎に設定されるボタンコマンドとして用いられる命令の具体例を示す図である。各命令は、オペコードとオペランドからなる。複数のオペランドを必要とする命令もある。

【0048】同図においてSetSTN命令は、オペランドとして音声論理チャネル番号、副映像論理チャネル番号、SPフラグが指定され、指定された論理チャネルの音声および副映像を再生することを再生装置に指示する。またSPフラグは、副映像データの表示出力をするかしないかを指定するフラグである。この命令で指定された論理チャネル番号は、再生装置内のレジスタに設定されるとともに物理チャネル番号に変換される。再生装置では、当該物理チャネルが再生されることになる。このコマンドは、タイトルメニューなどで再生すべき音声

論理チャネル、副映像論理チャネルの初期設定に利用されたり、タイトルの再生中に音声論理チャネルおよび副映像論理チャネルを動的に変更することに利用される。

【0049】Link命令は、オペランドで指定されたプログラムチェーン（以下PGCと略す）への分岐再生を指示する。ここでプログラムチェーン（PGC）とは、予め定められた一連に再生されるVOBの列又は再生経路をいう。PGCの詳細は後述する。CmpRegLink命令は、オペランドとして、レジスタ番号と整数値と分岐条件と分岐先PGC番号とが指定され、当該レジスタの値が整数値に対して分岐条件を満たす場合にのみ当該PGCに分岐することを指示する。分岐条件は、＝（一致）、>（大きい）、<（小さい）などである。

【0050】SetRegLink命令は、オペランドとして、レジスタ番号と整数値と演算内容と分岐先PGC番号とが指定され、当該レジスタの値と整数値とを演算した値を当該レジスタに格納してから当該PGCに分岐することを指示する。ここで演算内容を示すオペランドは、＝（代入）、+（加算）、-（減算）、*（乗算）、/（除算）、MOD（剰余残）、AND（論理積）、OR（論理和）、XOR（排他的論理和）などである。

【0051】SetReg命令は、オペランドとして、レジスタ番号と整数値と演算内容とが指定され、当該レジスタの値と整数値とを演算した値を当該レジスタに格納することを指示する。ここで演算内容を示すオペランドは、上記SetRegLink命令と同様である。

＜ビデオタイトルセットのデータ構成（その2）＞続いて、個々のビデオタイトルセットのうち、VOBの再生経路を制御するためのビデオタイトルセット管理情報について説明する。

【0052】図14は、図2中の各ビデオタイトルセットのうちビデオタイトルセット管理情報のデータ構成を階層的に示す図である。以下同図の階層を左から順に第1階層～第5階層と呼ぶ。同図の第1階層は、既に図3において説明した通りである。同図の第2階層に示すように、ビデオタイトルセット管理情報は、ビデオタイトルセット管理テーブルとタイトルサーチポインタテーブルとPGC情報管理テーブルから構成される。

【0053】「ビデオタイトルセット管理テーブル」は、このビデオタイトルセットのヘッダ情報であり、PGC情報管理テーブルやタイトルサーチポインタテーブルの格納位置を示すポインタが記録される。「タイトルサーチポインタテーブル」は、PGC情報管理テーブルに格納される複数のPGCのインデックスであり、タイトル毎に最初に実行されるべきPGC情報の格納位置へのポインタが記録される。例えばインタラクティブ映画の先頭PGCを表すPGC情報の格納位置を示すポインタが記録される。

【0054】「PGC情報管理テーブル」は、ビデオタ

イトルセット内に記録された複数のVOBから任意のVOBを組み合わせて任意の順序で再生できるようにするためのテーブルであり、複数のVOBを任意の順序で組み合わせたPGCという単位で管理している。このPGCの説明図を図16に示す。今、ビデオタイトルセット内に図16に示したVOB#1～#4が含まれているとする。同図のPGC#1は、VOB#1→VOB#2→VOB#3→VOB#4という再生経路を示している。PGC#2は、VOB#1→VOB#3→VOB#4という再生経路を示している。PGC#3は、VOB#1→VOB#4という再生経路を示している。これを実現するため図14の第3階層に示すように、PGC情報管理テーブルは、複数のPGC情報#1～#mからなる。各PGC情報は、1つのPGCの構成(VOBの経路)と、次に再生すべきPGCと、音声および副映像の論理チャネルと物理チャネルとの対応関係とを指定する。

【0055】図14の第4階層に示すように各PGC情報は、音声チャネルテーブル、副映像チャネルテーブル、PGC連結情報、前処理コマンド群、後処理コマンド群、経路情報とから構成される。「経路情報」は、第5階層のように、複数のVOBの位置情報からなり、再生順に並べられている。例えば、図16のPGC#1の経路情報は、VOB#1、#2、#3、#4の4つの位置情報からなる。この位置情報はVOBの先頭セクタの論理アドレス及び当該VOBの占有する全セクタ数を含む。

【0056】「後処理コマンド群」は、当該PGC再生後に実行すべきコマンドを示す。このコマンドは、図13に示した命令、つまりハイライト情報中のボタンコマンドとして使用される命令を設定することができる。例えば、図16のPGC#1から他のPGCに条件分岐させるには、PGC#1の後処理コマンド群にCmpRe_gLink命令を設定しておけばよい。

【0057】「前処理コマンド群」は、当該PGC再生開始前に実行すべきコマンドを示す。このコマンドも図13に示した命令を設定することができる。例えば、SetReg命令などによりレジスタに初期値を設定することに利用できる。「PGC連結情報」は、次に再生すべき1つのPGCの番号を示す。ただし後処理コマンド群中の分岐命令(CmpRegLinkなど)により分岐する場合には無視される。

【0058】「音声チャネルテーブル（以下、音声CHテーブルと略す）」は、当該PGCにおける音声論理チャネルと音声物理チャネルとの対応関係、再生が許可される音声論理チャネルを示すテーブルである。ここでいう音声論理チャネルと番号は、複数のPGC間でチャネル番号を統一的に取り扱うために用いられるチャネル番号である。このテーブルは、PGCの要素となる複数のVOB間で、音声物理チャネル数が異なる場合や、音声物理チャネル数が同じあっても物理チャネル番号の割当で

が異なる場合など、VOB間の音声再生の連続性を確保するために設けられている。例えば、図16に示したPGC#1において、今、VOB#1では日本語音声が選択されて再生されていたと仮定すると、次のVOB#2では日本語音声が存在しないので音声出力できないという不具合が生じうる。また、VOB#1とVOB#2とで英語音声の物理チャネル番号が異なっていたと仮定すると、VOB#1からVOB#2に再生が移ったときに異なる言語が再生されるという不具合も生じうる。

音声チャネルテーブルは、これらの不具合を解決する。

【0059】「副映像チャネルテーブル（以下、S P C Hテーブルと略す）」も音声チャネルテーブルと同様であるので省略する。

＜音声、副映像チャネルテーブルの構成＞図15に、図14の第4階層に示した音声CHテーブル、SPCHテーブルのより詳細なデータ構成を示す。

【0060】同図のように音声CHテーブルは、上から順に音声論理チャネル0～7のそれぞれに対応させて、その再生の許否を示す許可フラグと音声物理チャネルを示す音声IDとを記録している。許可フラグがセットされていれば、当該音声物理チャネルの再生が許可され、リセットされていれば禁止される。音声IDは、音声物理チャネルを識別するためのIDであり、具体的には、図7に示した音声パック中のサブストリームID、又はサブストリームIDの下位3ビットを示す。

【0061】また、SPCHテーブルは、上から順に副映像論理チャネル0～31のそれぞれに対応して、再生の拒否を示す許可フラグと副映像物理チャネルを示す副

30 映像 I D を記録している。許可フラグがセットされていれば、当該副映像物理チャネルの再生が許可され、リセットされていれば禁止される。副映像 I D は、音声物理チャネルを識別するための I D であり、具体的には、図 8 に示した副映像パック中のサブストリーム I D、又はサブストリーム I D の下位 5 ビットを示す。

【0062】上記音声CHテーブル、SPCHテーブルは、PGC毎に設定されるので、PGC毎に、タイトル制作者は、論理チャネルを任意の物理チャネルにマッピングさせることができる。図17に、音声CHテーブル、副映像CHテーブルの具体例を示す。同図は図16に示したPGC#1～#3それぞれに対応するPGC情報中の音声CHテーブル、副映像CHテーブルの一部分を図示している。

【0063】同図のPGC情報#1の経路情報には、VOB#1、#2、#3、#4の位置情報が記録されている。これは図16のPGC#1の再生経路を表している。PGC情報#1の音声CHテーブルは、音声論理チャネル0も1も2も音声物理チャネル0（音声ID=0）に対応することを示している。さらに、音声論理チャネル0の許可フラグのみが1であり、音声論理チャネル1の許可フラグが0である。

ル1、2の許可フラグは0である。したがって、この音声CHテーブルは、PGC#1の再生中に、音声物理チャネル0（英語音声）のみが再生され他の音声物理チャネルは再生されないように設定されている。このため、PGC#1の再生中に、音声論理チャネルの切り替えが、ユーザにより要求された場合であっても、再生が許可されている音声論理チャネル0以外の再生を禁止することになる。

【0064】PGC情報#1の副映像CHテーブルは、副映像論理チャネル0も1も2も副映像物理チャネル0（副映像ID=0）に対応することを示している。さらに、副映像論理チャネル0の許可フラグのみが1である。この音声CHテーブルによれば、PGC#1が再生されている間は、音声物理チャネル0のみが再生され、他の音声物理チャネルは再生されない。この副映像CHテーブルは、図16示したPGC#1の再生中に、副映像物理チャネル0（英語字幕）のみが再生可能であり、他の副映像物理チャネルは再生されないように設定されている。

【0065】また、図17のPGC情報#2の経路情報には、VOB#1、#3、#4の位置情報が記録されている。これは図16のPGC#2の再生経路を表している。PGC情報#2の音声CHテーブル及び副映像CHテーブルは、PGC#2の再生中に、音声物理チャネル0（英語音声）、1（日本語音声）、副映像物理チャネル0（英語字幕）、副映像物理チャネル2（日本語字幕）が再生可能であるように設定されている。

【0066】図17のPGC情報#3の経路情報には、VOB#1、#4の位置情報が記録されている。これは図16のPGC#3の再生経路を表している。PGC情報#3の音声CHテーブル及び副映像CHテーブルは、PGC#3の再生中に、音声物理チャネル0（英語音声）、1（日本語音声）、2（仏語音声）、副映像物理チャネル0（英語字幕）、1（英語字幕の難聴者用）、2（日本語字幕）、3（日本語字幕の難聴者用）が再生可能であるように設定されている。

【0067】このように音声CHテーブル及び副映像CHテーブルは、上記のPGC#1、#2、#3のように異なるチャネル数を有するVOBを共有している場合に、チャネル数の違いをうまく調整している。具体的には、音声CHテーブル、副映像CHテーブルにより、物理チャネル数が異なっている場合に、論理チャネルを実在する物理チャネルにマッピングすることができ、物理チャネルの割り当てが異なっている場合に、割り当ての違いを吸収することができる。また、許可フラグにより所望の論理チャネルを再生禁止にできる。

【0068】以上で光ディスクのデータ構造の説明を終わり、続いてその再生装置について説明する。

＜再生システムの外観＞図18は、本実施例における再生装置とモニターとリモコンからなる再生システムの外

観図である。

【0069】同図において、再生装置1は、リモコン91からの操作指示に従って、上記の光ディスク(DVD)を再生し、映像信号及び音声信号を出力する。リモコン91からの操作指示は、再生装置1のリモコン受信部92により受信される。表示用モニター2は、再生装置からの映像信号及び音声信号を受けて、映像表示及び音声出力する。この表示用モニターは、一般的なテレビでよい。

10 <リモコンの外観>図19は、上記リモコン91のキー配列の一例を示す。ここでは本発明に関連するキーを説明する。「メニュー」キーは、インタラクティブ映画等何れかのタイトル再生時に、ビデオマネージャによるシステムメニューを呼び出し用である。「テン」キー及び「方向(矢印)」キーは、メニュー項目の選択用である。「エンター」キーは、選択したメニュー項目の確定用である。「音声切替」キーは音声チャネルの切り替え用である。「副映像切替」キーは副映像チャネルの切り替え用である。その他のキーは、他のAV機器と同様である。

<再生装置の全体構成>図20は、図18の再生装置1の全体構成を示すブロック図である。再生装置1は、モータ81、光ピックアップ82、機構制御部83、信号処理部84、AVデコーダ部85、リモコン受信部92、システム制御部93から構成される。さらにAVデコーダ部85は、システムデコーダ86、ビデオデコーダ87、副映像デコーダ88、オーディオデコーダ89、映像合成部90から構成される。

【0070】機構制御部83は、ディスクを駆動するモータ81及びディスクに記録された信号を読み出す光ピックアップ82を含む機構系を制御する。具体的には、機構制御部83は、システム制御部93から指示されたトラック位置に応じてモータ速度の調整を行うと同時に光ピックアップ82のアクチュエータを制御しピックアップ位置の移動を行い、サーボ制御により正確なトラックを検出すると、所望の物理セクタが記録されているところまで回転待ちを行い所望の位置から連続して信号を読み出す。

【0071】信号処理部84は、光ピックアップ82から読み出された信号を増幅、波形整形、二値化、復調、エラー訂正などの処理を経て、システム制御部93内のバッファメモリ(図外)に格納する。バッファメモリのデータのうち、ビデオタイトルセット管理情報はシステム制御部93に保持され、VOBはシステム制御部93の制御によりバッファメモリからさらにシステムデコーダ86に転送される。

【0072】AVデコーダ部85は、信号処理されたVOBを元のビデオ信号やオーディオ信号に変換する。システムデコーダ86は、バッファメモリから転送されたVOBに含まれる論理ブロック単位(パック単位)にス

トリーID、サブストリームIDを判別し、ビデオデータをビデオデコーダ87に、オーディオデータをオーディオデコーダ89に、副映像データを副映像デコーダ88に出力し、管理パックをシステム制御部93に出力する。その際、システムデコーダ86は、複数のオーディオデータと複数の副映像データのうち、システム制御部93から指示された番号(チャネル)のオーディオデータ、副映像データをオーディオデコーダ89、副映像デコーダ88にそれぞれ出力し、その番号以外のデータを破棄する。

【0073】ビデオデコーダ87は、システムデコーダ86から入力されるビデオデータを解読、伸長してデジタルビデオ信号として映像合成部90に出力する。副映像デコーダ88は、システムデコーダ86から入力される副映像データがランレンジング圧縮されたイメージデータである場合には、それを解読、伸長してビデオ信号と同一形式で映像合成部90に出力する。

【0074】オーディオデコーダ89は、システムデコーダ86から入力されたオーディオデータを解読、伸長してデジタルオーディオ信号として出力する。映像合成部90は、ビデオデコーダ87の出力と副映像デコーダ88の出力をシステム制御部93に指示された比率で混合したビデオ信号を出力する。本信号は、アナログ信号に変換されたのち、ディスプレイ装置に入力される。

＜システムデコーダの構成＞図21は、図20におけるシステムデコーダ86の構成を示すブロック図である。同図のようにシステムデコーダ86は、MPEGデコーダ120、副映像／オーディオ分離部121、副映像選択部122、オーディオ選択部123から構成される。

【0075】MPEGデコーダ120は、バッファメモリから転送されたシステムストリームに含まれる各データパックについて、パック中のストリームIDを参照してパックの種類を判別し、ビデオパケットであればビデオデコーダ87へ、プライベートパケット1であれば副映像／オーディオ分離部121へ、プライベートパケット2であればシステム制御部93へ、MPEGオーディオパケットであればオーディオ選択部123へ、そのパケットデータを出力する。

【0076】副映像／オーディオ分離部121は、MPEGデコーダ120から入力されるプライベートパケット1について、パック中のサブストリームIDを参照してパケットの種類を判別し、副映像データであれば副映像選択部122へ、オーディオデータであればオーディオ選択部123へ、そのデータを出力する。その結果、全ての番号の副映像データ、全てのオーディオデータが副映像選択部122に、オーディオ選択部123に出力される。

【0077】副映像選択部122は、副映像／オーディオ分離部121からの副映像データのうち、システム制御部93に指示された副映像IDの副映像データのみを

副映像デコーダ88に出力する。指示された副映像ID以外の副映像データは破棄される。オーディオ選択部123は、MPEGデコーダ120からのMPEGオーディオ及び副映像／オーディオ分離部121からのオーディオデータのうち、システム制御部93に指示された音声IDのオーディオデータのみをオーディオデコーダ89に出力する。指示された音声ID以外のオーディオデータは破棄される。

＜システム制御部の構成＞図22は、図20中のシステム制御部93の構成を示すブロック図である。

【0078】システム制御部93は、ボタン制御部930、システム状態管理部935、コマンド解釈実行部936、再生制御部937、リモコン入力解釈部938から構成される。さらに、システム状態管理部935は、PGC情報バッファ935a、レジスタセット935b、音声チャネル決定部935c、副映像チャネル決定部935dとを備える。

【0079】ボタン制御部930は、システムデコーダ86から入力される管理パックを保持するバッファを有し、メニューに対するユーザのキー操作をリモコン入力解釈部938を介して受け付け、バッファ内のハイライト情報に従ってメニュー中の選択状態、確定状態にあるボタンを管理し、ハイライト表示するよう副映像デコーダ88を制御する。

【0080】システム状態管理部935は、信号処理部84から入力されるデジタルデータを一時的に保持するバッファ(図外)を有し、このバッファの一部を、PGC情報を保持するPGC情報バッファ935aとして確保している。システム状態管理部935は、当該バッファに入力されたデジタルデータがVOBである場合には、システムデコーダ86に転送し、PGC情報であればPGC情報バッファ935aに格納する。

【0081】レジスタセット935bは、複数のレジスタ(本実施例ではR0～R31の32本の32ビットレジスタとする)からなる。レジスタセット935bは、汎用レジスタと専用レジスタとを含む。レジスタR8～R11は、専用レジスタであり、現在再生中の音声チャネル、副映像データの各論理チャネル番号、物理チャネル番号を保持する。

【0082】図23に、レジスタR8～11に保持されるデータのビット割当てを示す。同図のようにR8は、下位3ビットD2-D0に音声論理チャネル番号を保持する。R9は、下位5ビットD4-D0に副映像論理チャネル番号を保持する。R10は、下位8ビットD8-D0に音声物理チャネル番号(音声ID)を保持する。この音声IDは、図7に示した音声パックのサブストリームIDの値であり、オーディオ選択部123に出力される。

【0083】R11は、最上位ビットD32にS/P表示フラグを、下位8ビットD8-D0に音声物理チャネル番号(副映像ID)を保持する。この副映像IDは、図8に

示した副映像パックのサブストリームIDの値であり、副映像選択部122に出力される。また、SP表示フラグは、副映像デコーダ88に対して副映像表示のオン／オフを指定する。

【0084】音声チャネル決定部935cは、PGC情報バッファ935aのPGC情報が更新されたとき、リモコン入力解釈部938から「音声切替」キー押下が通知されたとき、コマンド解釈実行部936からSet STN命令の実行を指示されたとき、PGC情報バッファ935aに保持されている音声CHテーブルとレジスタR8の音声論理チャネル番号とを参照して、再生すべき音声物理チャネル番号（音声ID）を決定する。決定により変更がある場合にはレジスタR8の音声論理チャネル番号と、レジスタR10の音声IDとを更新する。

【0085】副映像チャネル決定部935dは、PGC情報バッファ935aのPGC情報が更新されたとき、リモコン入力解釈部938から「副映像切替」キー押下が通知されたとき、及びコマンド解釈実行部936からSet STN命令の実行を指示されたとき、PGC情報バッファ935aに保持されている副映像CHテーブルと、レジスタR9の副映像論理チャネル番号を参照して、再生すべき副映像物理チャネル番号（副映像ID）を決定する。さらに、変更がある場合にはレジスタR9の副映像論理チャネル番号と、レジスタR11の副映像IDとを更新する。

【0086】コマンド解釈実行部936は、PGC情報バッファ935aを参照して、PGCの再生開始直前に前処理コマンド群のコマンドを、PGCの再生直後に後処理コマンド群のコマンドを実行し、また、VOBの再生中にボタン制御部930から通知されたボタンコマンドを実行する。再生制御部937は、リモコン入力解釈部938からのキー入力データを解釈実行し、機構制御部83及び信号処理部84その他の制御を行う。

【0087】リモコン入力解釈部938は、リモコン受信部92から入力されたキーを示すキーコードを受け、システム状態管理部935及び再生制御部937に通知する。

＜副映像デコーダの詳細な構成＞図24は、副映像デコーダ88の詳細な構成を示すブロック図である。同図のように副映像デコーダ88は、入力バッファ881、副映像コード生成部882、副映像表示制御部883、副映像コード変換テーブル884、圧縮映像信号生成部885、ハイライトコード変換テーブル886、ハイライト領域管理部887、副映像信号生成部888から構成される。

【0088】入力バッファ881は、システムデコーダ86内の副映像選択部122により選択されたチャネルの副映像データを保持する。副映像コード生成部882は、ランレングス圧縮されている入力バッファ内のイメージデータを伸長することにより、各ピクセルが2ビ

トコードで表されたビットマップのデータに変換する。【0089】副映像表示制御部883は、イメージデータの表示開始や表示終了、カラオケ使用時の色変化などイメージ処理を行うとともに副映像データ中に記録された色情報により副映像コード変換テーブル884を生成する。圧縮映像信号生成部885は、副映像コード生成部882の出力である各ピクセル毎の2ビットコードを副映像部分は副映像コード変換テーブル884を参照し、ハイライト部分はハイライトコード変換テーブル886を参照し4ビットの16色コードを生成する。

【0090】ハイライトコード変換テーブル886は、イメージデータの一部領域であるハイライト部分の2ビットコードから4ビットコードへの色変換テーブルである。ハイライト領域管理部887は、ハイライト表示の矩形領域を開始XY座標と終了XY座標を記憶、圧縮映像信号生成部885の読み出しに備える。副映像信号生成部888は、圧縮映像信号生成部885の出力である各ピクセルあたり4ビットの16色コードをマッピングテーブル（図外）を用いて24ビットの約1600万色データに変換する。＜システム制御部93による再生制御の概略処理フロー＞図25は、図20におけるシステム制御部93による再生制御の概略処理を示すフローチャートである。

【0091】まず、システム制御部93は、ディスクが再生装置にセットされたことを検出すると、機構制御部83および信号処理部84を制御することにより、安定な読み出しが行われるまでディスク回転制御を行い、安定になった時点で光ピックアップを移動させリードイン領域を最初に読み出す。その後、ボリューム管理領域を読み出し、ボリューム管理領域の情報に基づき図2に示したビデオマネージャを読み出し（ステップ121、122）、システムメニュー用のPGC群が再生される（ステップ123）。

【0092】システムメニューにおけるユーザ操作に従って、システム制御部93は、選択されたビデオタイトルセットにおけるタイトルメニュー用のPGCを再生し（ステップ124）、ユーザの選択に基づいて（ステップ125）、選択されたタイトルに対応するビデオタイトルセット管理情報を読み出して（ステップ126）、タイトルの先頭のPGCに分岐する（ステップ127）。さらに、このPGC群を再生し、再生を終了するとステップ124に戻る（ステップ128）。

＜プログラムチェーン群の再生処理フロー＞図26は、図25のステップ128のプログラムチェーン群の再生処理の詳細なフローチャートを示す。図25のステップ123、124についても同様である。

【0093】図26において、まず、システム制御部93は、ビデオタイトルセット管理情報から、該当するPGC情報を読み出す（ステップ131）。このPGC情報は、PGC情報バッファ935aに格納される。次に

PGC情報バッファ935a内のPGC情報に従って、前処理コマンド群の実行を含む初期設定を行う（ステップ132）。この前処理コマンド群の実行により、例えればレジスタの初期値の設定などがなされる。

【0094】次いで、PGC情報バッファ935a内の経路情報に指定されている位置情報を順に取り出して、各VOB#i（iは1からn）の再生制御を行う（ステップ133）。具体的にはシステム制御部93は、経路情報に設定されている位置情報を従って、機構制御部83及び信号処理部84に対して、当該VOBの読み出しが開始する。読み出されたVOBは、AVデコーダ部85により分離及び再生される。この時点で分離されたビデオ、副映像が表示画面（図外）に表示され、オーディオデータによる音声出力が開始される。このVOB再生の途中でボタンコマンドとして設定された分岐命令が実行された場合には、当該分岐命令で指定されたPGCに分岐する（ステップ135→131）。また、全てのVOBの再生が終了した場合には、後処理コマンド群を実行し（ステップ134）。さらに次に再生すべきPGCがあれば新たなPGCの再生を開始する（ステップ135→131）。次に再生すべきPGCは、後処理コマンド群中に分岐命令またはPGC情報中のPGC連結情報により指定される。

＜VOBの再生＞図27は、図26中のステップ133#iに示した、個々のVOB（VOB#i）の再生制御処理を示すフローチャートである。

【0095】まず、システム制御部93は、経路情報のi番目の位置情報を従って、VOB#iの先頭アドレスからの読み出し開始を制御する（ステップi11）。これにより、VOB#iのデジタルデータ列が機構制御部83及び信号処理部84により読み出される。読み出されたデジタルデータ列は、一旦システム制御部93を介してシステムデコーダ86に連続的に入力される。システムデコーダ86は、デジタルデータ列をデコードしてビデオパック、特定チャネルの副映像パック、特定チャネルのオーディオパック、管理パックを判別し、それぞれビデオデコーダ87、副映像デコーダ88、オーディオデコーダ89、システム制御部93内のボタン制御部930に出力される。これにより、動画、音声、副映像の再生が開始される。また、管理パックは、約0.5秒に1回ボタン制御部に入力される。

【0096】ボタン制御部930は、管理パックが入力される（ステップi2）と、図11に示したハイライト状態に従って、管理パックに新たなハイライト情報が設定されているかどうかを判定し（ステップi3）、新たなハイライト情報であれば内部バッファに格納する。ボタン制御部930では、内部バッファのハイライト情報に基づいて、図28に示すハイライト処理を行う（ステップi4）。ここでハイライト処理とは、ハイライト表示とハイライト情報に基づくインタラクティブ制御とを

いう。

【0097】さらに、システム制御部93は、DVDから読み出されたデジタルデータ列がVOB#iの末尾でなければ、管理パックの入力を待ちとなる（ステップi2）。この場合上記処理が繰り返されることになる。また、VOBの末尾であれば当該VOB#iの再生を終了する。その際は、VOB#iの末尾か否かを、位置情報中に含まれるVOB#iの全セクタ数を基に判定する。＜ハイライト処理＞図28は、上記ハイライト処理（図1027のステップi4）の概略を示すフローチャートである。

【0098】ボタン制御部930は、内部バッファに保持しているハイライト情報中の強制選択ボタン番号に従ってボタンの初期状態を決定する（ステップ202）。さらに、ボタン制御部930は、ハイライト開始時刻と再生装置内部のシステム時刻とを比較し、ハイライト開始時刻になった時点で（ステップ203）ハイライト表示を行うよう副映像デコーダ88を制御する（ステップ204）。この後、ボタン制御部930は、ボタン選択終了時刻になるまでの間（ステップ205）、ユーザのキー入力に応じて状態が遷移する毎に（ステップ207、208：図29参照）ハイライト表示を更新するよう副映像デコーダ88を制御する。ボタン選択終了時刻になった時点でハイライト表示を終了するよう副映像デコーダ88を制御する（ステップ206）。

＜ボタン状態遷移処理＞図29は、上記ボタン状態遷移処理（図28のステップ208）を示すより詳細なフローチャートである。

【0099】リモコン入力解釈部938からキーコード30が入力されたとき、ボタン制御部930は、まずキーコードからどの入力キーが押されたかを判別する（ステップ251、254、256）。次に、ボタン制御部930は、入力キーが数字キーであり（ステップ251）、当該数字が内部バッファのハイライト情報に存在する有効なボタン番号であれば（ステップ252）当該数字を選択状態のボタン番号として保持する（ステップ253）。入力キーが矢印キーであれば（ステップ254）、内部バッファのハイライト情報の隣接ボタン情報に従って遷移先のボタン番号を取得し当該ボタン番号を選択状態として保持する（ステップ255）。入力キーが確定キーであれば現在の状態として保持されているボタン番号を確定状態のボタン番号として保持し、当該ボタンを確定色にするよう副映像デコーダを制御し、確定状態のボタンに対応するボタンコマンドを実行する（ステップ257）。さらに、ボタンコマンドが分岐命令（LINK命令など）であれば、図26のステップ135へ戻る（ステップ258）。

＜音声チャネル決定部の詳細処理フロー＞図30は、図22に示した音声チャネル決定部935cの詳細な処理フローを示す。

【0100】同図において、音声チャネル決定部935cは、リモコン入力解釈部938から「音声切替」キー押下が通知されたか、コマンド解釈実行部936からSET STN命令の実行を指示されたか、PGC情報バッファ935aのPGC情報が更新されたか、を常に監視し（ステップ271～273）それぞれに対して次の処理を行う。

【0101】「音声切替」キー押下が通知された場合（ステップ271）、レジスタR8の音声チャネル番号を読み出し当該番号を変数”i”に設定し（ステップ274）、”i”を+1インクリメントし、さらにi/8の余りを”i”とする（ステップ275）。余りを求めるのは0～7の範囲を越えないようにするためである。さらに、音声CH決定部935cは、音声CHテーブルのi番目の許可フラグが無効であれば、有効な許可フラグが見つかるまで、”i”的操作を繰り返す（ステップ276）。有効であれば、音声CHテーブルの当該”i”番目の音声IDを読み出し（ステップ277）、レジスタR10にその音声IDを音声物理チャネル番号として書き込み、レジスタR8にそのiの値を音声論理物理番号として書き込む（ステップ278）。

【0102】今、音声論理チャネル1が有効、2が有効、3が無効、4が有効であり、R8に保持された現在の音声論理チャネル番号が1であるとする。この状態で、「音声切替」キーが押下された場合には、チャネル2に切り替えられることになる。再び「音声切替」キーが押下された場合には、チャネル3が無効なため、有効であるチャネル4にスキップし、チャネル4が設定されることになる。このように、ユーザにより「音声切替」キーが押下される毎に、有効なチャネルを順次切り替えることができる。

【0103】また、コマンド解釈実行部936からSET STN命令の実行を指示された場合には（ステップ272）、その命令のオペランドとして指定された音声チャネル番号#iを受けて、音声CHテーブルの当該”i”番目の音声IDを読み出し（ステップ277）、レジスタR10にその音声IDを音声物理チャネル番号として書き込み、レジスタR8にそのiの値を音声論理物理番号として書き込む（ステップ278）。これによりSET STN命令で指定された音声論理チャネルに切り替えられる。

【0104】また、PGC情報バッファ935aのPGC情報が更新された場合には（ステップ273）、レジスタR8を読み出してその値を”i”とし、音声CHテーブルの当該”i”番目の音声IDを読み出し（ステップ277）、レジスタR10にその音声IDを音声物理チャネル番号として書き込み、レジスタR8にそのiの値を音声論理物理番号として書き込む（ステップ278）。これにより前のPGCの音声CHテーブルと、現在のPGCの音声テーブルとで、マッピングが変更され

ている場合に対応することができる。

＜副映像チャネル決定部の詳細処理フロー＞図31は、図22に示した副映像チャネル決定部935dの詳細な処理フローを示す。

【0105】同図は図30に示した音声チャネル決定部935cと同様の処理なので、同じ点は説明を省略し、異なる点のみ説明する。異なる点は、副映像チャネルを扱うためレジスタR9、R11の内容を更新する点と、コマンド解釈実行部936からSET STN命令の実行を指示された場合に副映像表示フラグをR11にコピーする点である。後者について、副映像チャネル決定部935dは、その命令のオペランドとして指定された副映像表示フラグの値を、レジスタR11のSP表示フラグに設定する（ステップ289）。これにより、命令により副映像データの表示オン／オフを実現している。

＜動作例＞つづいて、以上のように構成された本実施例におけるマルチメディア光ディスク及びその再生装置について、その動作を説明する。

＜第1動作例＞今、光ディスクには、映画A、映画B、ゲームの2つのビデオタイトルセットとビデオマネージャーが記録されているものとする。ビデオマネージャーには、図10に示したシステムメニューM101を表したPGCが記録されているものとする。また、映画Aのビデオタイトルセットには、図16に示したノーカット版、劇場公開版、TV放映版の映画Aと、図10に示したタイトルメニューM102～M106とが記録されているものとする。

【0106】再生装置の電源投入後、まず図10に示したシステムメニューM101が再生される（図25のステップ121～123参照）。このシステムメニューM101は、「映画A」「映画B」「ゲーム」の3つのメニュー項目を表示している。このシステムメニューにおいて、ユーザがボタン0（映画A）を選択した場合、映画Aのビデオタイトルセット内のタイトルメニューM102が再生される（図25のステップ124参照）。

【0107】図10のタイトルメニューM102において、ユーザは、ノーカット版、劇場公開版、TV放映版の何れかを選択可能である。またタイトルメニューM103～M106には、バージョン毎に選択可能な音声チャネルと、副映像チャネルを示すメニュー項目が用意されている。ノーカット版が選択された場合には、図16のPGC#1に示すように、音声物理チャネル数、副映像物理チャネル数の異なるVOB#1、#2、#3、#4と順に再生される。この場合、図17の音声CHテーブル、副映像CHテーブルによれば、音声論理チャネル0（英語音声）と、副映像論理チャネル0（英語字幕）のみが再生許可されているので、PGC#1の再生中にVOB#2の音声物理チャネル0と副映像物理チャネル0以外の物理チャネルが誤って再生されることを防止している。例えば、ノーカット版の映画Aの再生中に、ユ

ーザが「音声切替」キーを押下しても、他の音声チャネルは許可フラグ=0なので、スキップされて、結局英語音声が依然再生されることになる（図30参照）。

【0108】また、劇場公開版が選択された場合には、図16のPGC#2に示すように、VOB#1、#3、#4と順に再生される。この場合、英語音声、日本語音声、英語字幕、日本語字幕が再生可能になっている。劇場公開版の再生中にユーザが「音声切替」キーを押下した場合、再生可能なチャネルが順に切り替えられることになる（図30参照）。副映像チャネルについても同様である（図31参照）。このように、音声物理チャネル数、副映像物理チャネル数の互いに異なるVOBが複数のPGCに共有されている場合に、音声CHテーブル及び副映像CHテーブルはVOBのチャネル数の違いを調整して適切な音声、副映像のみを再生することができる。

＜第2動作例＞次に、図10に示したタイトルメニューが、上記映画AのTV放映版が再生されている途中で、一時に呼び出され、さらに、映画Aが再開される場合の音声チャネル、副映像チャネル切り替え動作を例に説明する。ここでタイトルメニューは上記映画Aの再生中にリモコンの「メニュー」キー押下により呼び出され、さらに、再度の「メニュー」キー押下により元の映画Aが再開する。

【0109】図32は、図10に示したタイトルメニュー用のVOB#5の説明図である。このVOB#5は、メニュー画像の背景用の動画を表すvideo 5001, 5002, …と、メニュー表示時のBGM音楽を表すaudio D5001, D5002, D5003, …と、メニュー画像を表すSP E5001, E5002, …と、管理パック5001, 5002, …とかなる。BGM用の音声物理チャネル番号（音声ID）は“3”であり、メニュー画像用の副映像物理チャネル（副映像ID）は“5”であるものとする。

【0110】図33は、上記タイトルメニュー用のPGC情報#4の一例を示す。同図のPGC情報#4は、図17に示した映画AのPGC情報#1～#3とともに同一のビデオタイトルセットに記録される。図33の経路情報は、PGC#4が図32のVOB#5のみから構成されていることを示す。また音声CHテーブルは、全ての音声論理チャネルがBGM音楽用の音声物理チャネル（音声ID=3）に対応するように設定されている。副映像CHテーブルは、全ての副映像論理チャネルがメニュー画像用の副映像物理チャネル（副映像ID=4）に対応するように設定されている。

【0111】図34に示すように、ユーザがTV放映版の映画Aを鑑賞している途中で「メニュー」キーを押下した場合、再生装置は映画Aの再生を一時に中断してタイトルメニューの再生を開始する。このとき、図33の音声CHテーブルによれば、映画Aのどの音声チャネルが再生されていたとしても、タイトルメニューではB

GM音楽が必ず再生されることになる（図30のフロー参照）。また図33の副映像CHテーブルによれば、映画Aのどの字幕が再生されていたとしても、タイトルメニューではメニュー画像が必ず再生されることになる（図31のフロー参照）。

【0112】タイトルメニューにおいて、ユーザ操作にしたがって音声チャネル、副映像チャネルが変更された場合、レジスタR8、R9の内容が変更される。これはVOB#5の管理パック中のボタンコマンドとしてSET STN命令により実現される（図30、図31参照）。さらに、再生装置は、タイトルメニュー再生中に、「メニュー」キーが押下された場合、元の映画Aの再生を再開する。このとき、レジスタR8、R9に保持されている論理チャネルに対応する物理チャネルの音声、副映像が再生される（図30、図31参照）。もしユーザがタイトルメニューにおいて音声チャネル、副映像チャネルを変更していない場合には、タイトルメニュー呼び出し前に再生されていた音声チャネル、副映像チャネルが再開される。これは、レジスタR8、R9に元の論理チャネル番号が保存されているからである。また、もしユーザがタイトルメニューにおいて音声チャネル、副映像チャネルを変更した場合には、変更後の論理チャネルに対応する音声チャネル、副映像チャネルが再開される。

【0113】このように、音声チャネル数、副映像チャネル数が異なる複数のPGCが順次再生される場合でも、再生装置は、PGC毎に適切な物理チャネルを再生することができる。また、上記動作例では、映画Aの再生途中で呼び出されタイトルメニューにおいて音声又は副映像論理チャネルを変更する例を示したが、タイトルメニューではなく副映像データにより表されたメニューにおいて変更するようにしても良い。例えばインタラクティブ映画では、再生の分岐点毎に副映像チャネルによるメニュー画像が表示されるので、当該メニューにおいてユーザ操作に従って音声チャネルや副映像チャネルを変更するようにすればよい。

＜第3動作例＞図35は、英会話教材を構成するPGC#10、PGC#11を示す。PGC#10、#11は、何れもVOB#10～#12からなる。各VOBは、英会話シーンを表す動画と、視聴者への問題を音声で問い合わせる音声チャネル（問題編：音声ID=0）と、使用者への問題に加えて解答の音声も含む音声チャネル（解答編：音声ID=1）と、同様に字幕（問題編：副映像ID=0）と、字幕（解答編：副映像ID=1）とを有する。

【0114】図36は、PGC#10、PGC#11用のPGC情報を示す。PGC#10、PGC#11とともに、経路情報としてVOB#10～#11の位置情報が設定されている。PGC情報#10の音声CHテーブルでは、音声論理CH0、1はともに音声ID=0に対応

し、音声論理CH0のみ再生が許可されている（許可フラグ=1）。副映像CHテーブルでは、副映像論理CH0、1はともに副映像ID=0に対応し、副映像論理CH0のみ再生が許可されている（許可フラグ=1）。これにより、PGC#10では、問題編の音声チャネルと、問題編の副映像チャネルのみが再生可能になる。

【0115】これに対してPGC情報#11によれば、解答編の副映像チャネル（音声ID=1）と解答編の副映像チャネル（副映像ID=1）のみが再生可能になる。例えばPGC#10、#11は、生徒用、先生用とすることができる。また、使用者が学習の進度に応じて使い分けるようにしてもよい。また、解答編は、問題と解答を含むとしたが解答のみを含むようにして、先生用の再生経路では問題編も解答編も切り替え可能として、生徒用の再生経路では問題編のみが利用可能としてもよい。

【0116】このように、複数の音声チャネル、複数の副映像チャネルを有するVOBに対して、それを利用するPGC毎に、どの音声チャネルを再生許可するか、どの副映像チャネルを再生許可するかを、自由に設定することができる。尚、説明が繁雑になるため上記動作例では音声CHテーブル、副映像CHテーブルの一部を省略したが、音声CHテーブルは0～7までの計8個のエントリーがあり、副映像CHテーブルは0～31までの計32個のエントリーを持つ。上記動作例で説明しなかったチャネルのエントリーはいずれも非許可のフラグが設定される。

【0117】以上説明してきたように本実施例の光ディスク及び再生装置によれば、VOBが複数のPGCにより共有されている場合に、タイトル制作者は、PGC毎に、どの音声チャネル、どの副映像チャネルを再生許可するかを設定することができる。また、ユーザは、再生許可されている音声チャネル、副映像チャネルのうち、許可された範囲で自由に切り替え可能とすることができます。その結果、許可されていない音声／副映像チャネルや、VOB中に存在しない音声／副映像チャネルに切り替えられてしまうという誤操作を防止することができる。

【0118】また、本実施例の光ディスク及び再生装置によれば、異なる音声／副映像物理チャネル数を有する複数のPGCを順次再生する場合に、ユーザにより設定された音声／副映像論理チャネル番号は、音声／副映像CHテーブルにより物理チャネルにマッピングされるので、PGCを移行する毎に適切な物理チャネルを切り替えながら再生することができる。

【0119】なお、上記実施例ではユーザによる音声／副映像チャネルの変更指示は、リモコンの「音声／副映像切替」キーを受け付ける場合と、「メニュー」キーによりシステムメニューを呼び出す場合とを説明したが、例えば、再生装置に付随する操作パネルのキーで受け付

けるようにしてもよい。また、「音声／副映像切替」キーを受け付けた場合、再生が許可されたチャネルに順次切り替えるというサイクリックな切り替えを行っているが、例えば、TENキーを併用してチャネルの番号を直接指定するようにしてもよい。この場合、図30のステップ274、図31のステップ284の代わりに、TENキー入力された数字を”i”とするステップを設ければよい。

【0120】また、上記実施例では光ディスクがDVDである例を示したが、大容量のデジタル動画データを記録できればこれに限るものではない。さらに、読み出し専用ディスクでなく、書換可能なディスクであっても効果は同様である。上記実施例では、動画データがMPEG2方式のデジタル動画データである場合を説明したが、音声や副映像等と共にマルチメディアデータを形成可能な動画データであればこれに限るものではなく、例えばMPEG1方式のデジタル動画や、MPEG方式で利用されるDCT(Discrete Cosine Transform)以外の変換アルゴリズムによるデジタル動画であってももちろんよい。

【0121】また、本実施例では管理パックは動画の復元単位であるGOP毎に配置されたが、デジタル動画の圧縮方式が異なれば、その圧縮方式の復元単位毎にすればよい。また、ハイライト情報を格納する管理パックの配置単位はVOBU毎に限るものではなく、0.5秒～1.0秒よりも細かな映像再生の同期単位、例えば、1/30秒毎の映像フレーム単位であってもよい。<光ディスクの製造方法>最後に、本発明の実施例における光ディスクの製造方法を説明する。

【0122】図37は、本実施例に係る光ディスクの製造方法を示すフローチャートである。まず、図2に示したボリューム領域のデータを論理データ列作成装置により作成する（ステップ191）。この論理ボリュームデータ作成装置は、パソコンやワークステーション上でマルチメディアデータの編集ソフトを使用して、図2に示したデータ構造をもつボリュームデータを作成することができる。このボリュームデータは、磁気テープ等の伝達媒体に記録され、さらに物理データ列作成装置により物理データ列に変換される（ステップ192）。この物理データ列は、ボリュームデータに対してリードイン領域のデータ、リードアウト領域のデータなどが付加された後、ECC(Error Correction Code)処理されたものである。この物理データ列を用いて原盤カッティングは、光ディスクの原盤を作成する（ステップ193）。さらにプレス装置によって作成された原盤から光ディスクが製造される（ステップ194）。

【0123】上記の製造フローでは、本発明のデータ構造に関する論理データ列作成装置の一部を除いて、既存のCD用の製造設備がそのまま使用可能である。この点に関しては、オーム社「コンパクトディスク読本」中島平

太郎、小川博司共著や、朝倉書店「光ディスクシステム」応用物理学会光学談話会に記載されている。
 (産業上の利用可能性) 以上のように本発明のマルチメディア光ディスクは、データ領域と管理情報領域とを有するマルチメディア光ディスクであって、データ領域は、複数のビデオデータが記録され、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に扱いに再生されるべき複数チャネルの副データとがインターリーブ記録され、副データは音声データと副映像データとの何れかであり、管理情報領域は、各ビデオデータ毎に、副データの論理チャネル番号と物理チャネル番号とを対応させたチャネルテーブルが記録され、論理チャネル番号は複数のビデオデータで共通に割当てられたチャネル番号であり、物理チャネル番号は光ディスクにおける副データを物理的に区別するためのチャネル番号である。

【0124】よって、複数チャネルの副データを記録した場合に、ビデオデータ間で統一的に副データを管理することに適している。また、本発明の再生装置は、前記マルチメディア光ディスクのデータを読み出す読出部と、予め定められた論理チャネル番号を保持するチャネル番号保持部と、読出部によって読み出されたチャネルテーブルと、チャネル番号保持部の論理チャネル番号とに従って再生すべき副データの物理チャネル番号を決定する決定部とを備える。

【0125】よって、複数チャネルの副データを記録した場合に、ビデオデータ間で統一的に副データを再生することに適している。

【0126】

【発明の効果】本発明の記録媒体の記録方法は、データを作成するステップと、作成したデータを記録媒体に記録するステップとを有し、前記データは複数のビデオデータと管理情報を含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に扱いに再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であるように構成される。

【0127】この構成によれば、前記テーブルは、プログラムチェーンが示す複数のVOB間で、副データの数が異なる場合や、副データの数が同じあってもIDの割当てが異なる場合であっても、論理番号を実在する副データのIDにマッピングすることができ、また、各ビデオデータに含まれる副データのIDの割当てが異なって

いる場合であっても、テーブルにより論理番号を同内容の副データのIDにマッピングすることができる。

【0128】ここで、前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録されている。

【0129】この構成によれば、ビデオデータの再生の途中に上記コマンドにより副データを切り替えることができる。本発明の再生装置は、記録媒体に記録されたデータを再生する再生装置であって、上記した記録媒体からデータを読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と番号保持手段の論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定手段と、読出手段によって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された動画データおよび選択手段によって選択された副データを再生する再生手段とを備える。

【0130】ここで、前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録されている。

【0131】また、前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録され、前記再生装置は、前記制御情報中のコマンドにより指示される論理番号を保持手段に保持するよう構成してもよい。

【0132】この構成によれば、ビデオデータの再生の途中に上記コマンドにより副データを切り替えることができる。5 本発明の再生方法は、記録媒体に記録されたデータを再生する再生方法であって、前記記録媒体からデータを読み出す読出手段と、再生装置内の特定レジスタに予め定められた論理番号を設定する設定ステップと、読出手段によって読み出されたテーブルと経路情報と前記特定レジスタに保持された論理番号とに従って再生すべき副データのIDを決定する決定ステッ

と、読み出ステップによって読み出された複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択ステップと、読み出ステップによって読み出された動画データおよび選択ステップによって選択された副データを再生する再生ステップとを有する。

【0133】この構成によれば、前記テーブルは、プログラムチェーンが示す複数のVOB間で、副データの数が異なる場合や、副データの数が同じあってもIDの割当が異なる場合であっても、論理番号を実在する副データのIDにマッピングすることができ、また、各ビデオデータに含まれる副データのIDの割当が異なっている場合であっても、テーブルにより論理番号を同内容の副データのIDにマッピングすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例におけるDVDの外観、断面、拡大した断面及びピット形状を示す図である。

【図2】DVDに記録される全体のデータ構造図である。

【図3】図2中の各ビデオタイトルセットの内部構造を示す。

【図4】VOBのさらに詳細なデータ構成を説明する図である。

【図5】VOBのさらに詳細なデータ構成を説明する図である。

【図6】ビデオパックのデータフォーマットを示す。

【図7】オーディオパックのデータフォーマットを示す。

【図8】副映像データパックのデータフォーマットを示す。

【図9】管理パックのデータフォーマットを示す。

【図10】副映像データによるメニュー画像例を示す。

【図11】管理パックのより詳細なデータ構成を階層的に示した図である。

【図12】管理パック中のボタン色情報及びボタン情報のより詳細なデータ構成を示す図である。

【図13】ボタン毎に設定されるボタンコマンドとして用いられる命令の具体例を示す図である。

【図14】図2中の各ビデオタイトルセットのうちビデオタイトルセット管理情報のデータ構成を階層的に示す図である。

【図15】図2中の各ビデオタイトルセットのうちビデオタイトルセット管理情報のデータ構成を階層的に示す図である。

【図16】PGCの説明図である。

【図17】音声CHテーブル、副映像CHテーブルの具体例を示す。

【図18】本実施例における再生システムの外観図である。

【図19】リモコンのキー配列の一例を示す。

【図20】再生装置の全体構成を示すブロック図であ

る。

【図21】システムデコーダの構成を示すブロック図である。

【図22】システム制御部の構成を示すブロック図である。

【図23】レジスタセットの一部を示す図である。

【図24】副映像デコーダの詳細な構成を示すブロック図である。

【図25】システム制御部による再生制御の概略処理を示すフローチャートである。

【図26】図25中のプログラムチェーン群の再生処理の詳細なフローチャートを示す。

【図27】図26中のVOB再生制御処理を示すフローチャートである。

【図28】図27中のハイライト処理の概略を示すフローチャートである。

【図29】図28中のボタン状態遷移処理を示すより詳細なフローチャートである。

【図30】音声チャネル決定部の詳細な処理フローを示す。

【図31】副映像チャネル決定部の詳細な処理フローを示す。

【図32】タイトルメニュー用のVOBの説明図である。

【図33】タイトルメニュー用のPGC情報の説明図である。

【図34】映画の再生を一時的に中断してタイトルメニューを呼び出しさらに元の映画を再開する動作の説明図である。

30 【図35】英会話教材を構成するPGCの例を示す。

【図36】英会話教材を構成するPGCのPGC情報を示す。

【図37】本実施例に係る光ディスクの製造方法を示すフローチャートである。

【符号の説明】

1 再生装置

2 表示用モニター

R 8～R 11 レジスタ R

8 1 モータ

40 8 2 光ピックアップ

8 3 機構制御部

8 4 信号処理部

8 5 AVデコーダ部

8 6 システムデコーダ

8 7 ビデオデコーダ

8 8 副映像デコーダ

8 9 オーディオデコーダ

9 0 映像合成部

9 1 リモコン

9 2 リモコン受信部

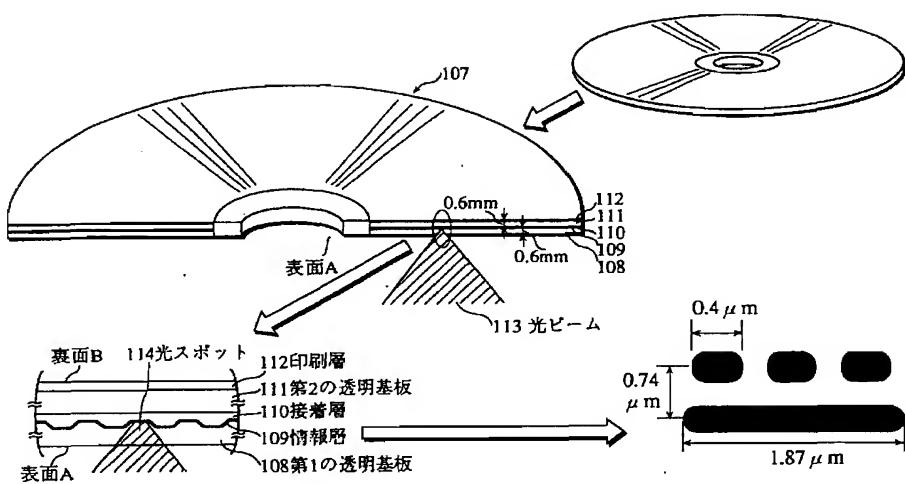
35

9 3 システム制御部
 1 0 2 タイトルメニューM
 1 0 2 メニュー画像M
 1 0 3 タイトルメニューM
 1 0 6 M
 1 0 7 DVD
 1 0 8 透明基板
 1 0 9 情報層
 1 1 0 接着層
 1 1 1 透明基板
 1 1 2 印刷層
 1 1 3 光ビーム
 1 1 4 光スポット
 1 2 0 JPEGデコーダ
 1 2 1 副映像／オーディオ分離部
 1 2 2 副映像選択部
 1 2 3 オーディオ選択部
 8 8 1 入力バッファ

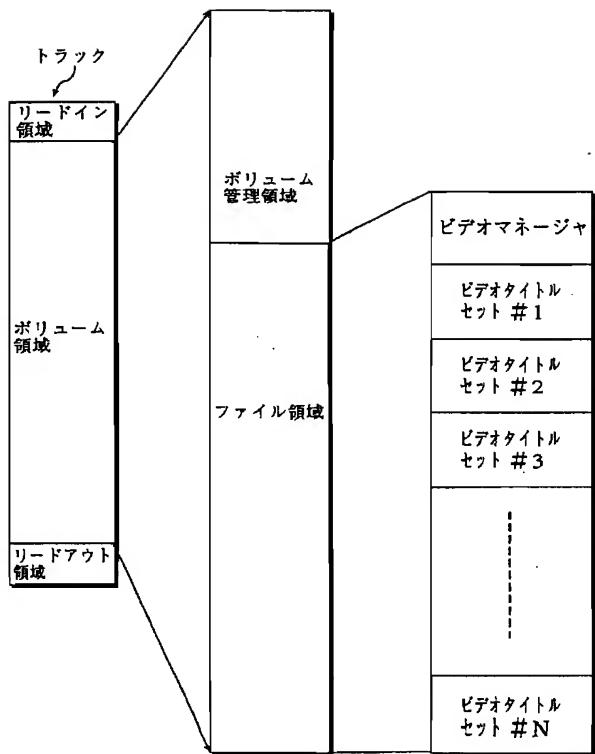
36

8 8 2 副映像コード生成部
 8 8 3 副映像表示制御部
 8 8 4 副映像コード変換テーブル
 8 8 5 圧縮映像信号生成部
 8 8 6 ハイライトコード変換テーブル
 8 8 7 ハイライト領域管理部
 8 8 8 副映像信号生成部
 9 3 0 ボタン制御部
 9 3 5 システム状態管理部
 10 9 3 5 a PGC情報バッファ
 9 3 5 b レジスタセット
 9 3 5 c 音声CH決定部
 9 3 5 c 音声チャネル決定部
 9 3 5 d 副映像チャネル決定部
 9 3 6 コマンド解釈実行部
 9 3 7 再生制御部
 9 3 8 リモコン入力解釈部

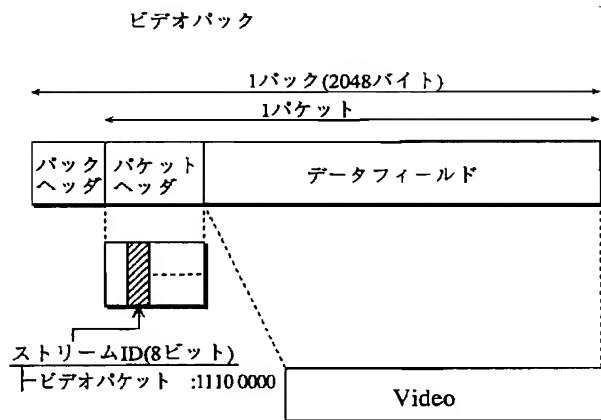
【図1】



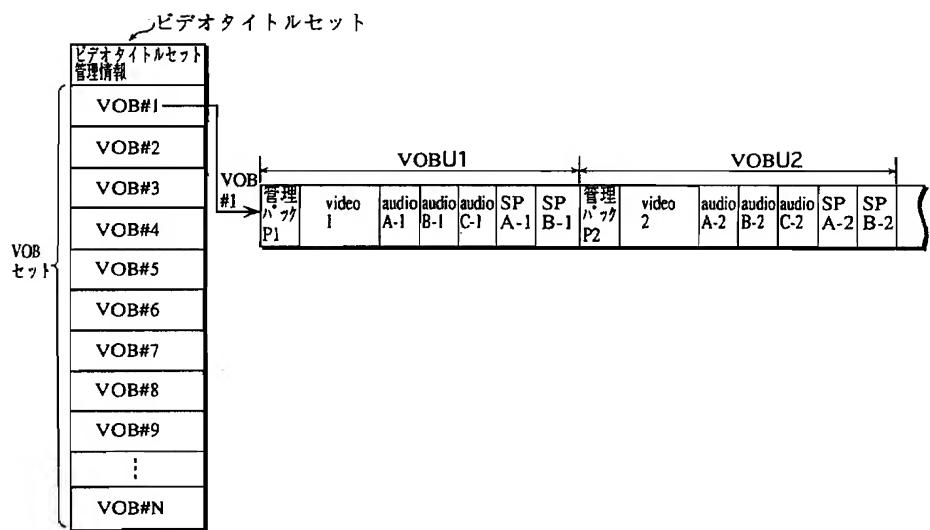
【図2】



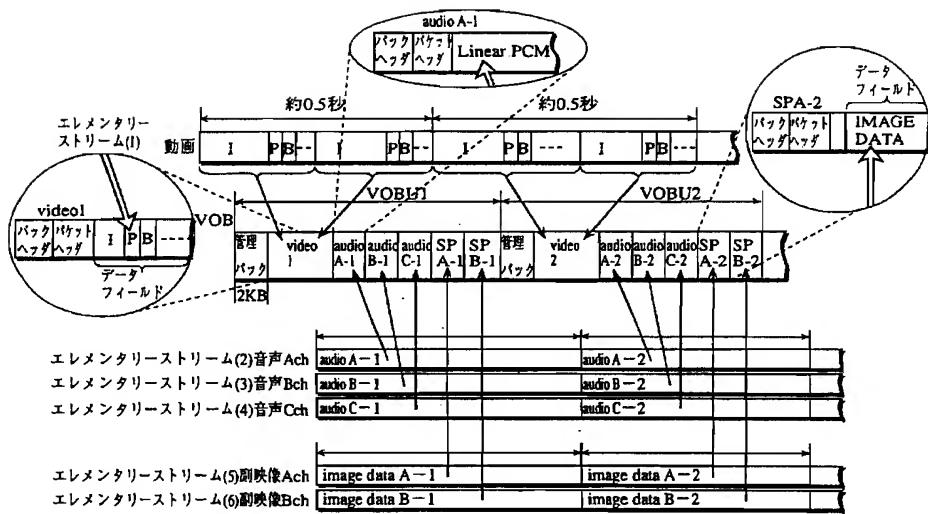
【図6】



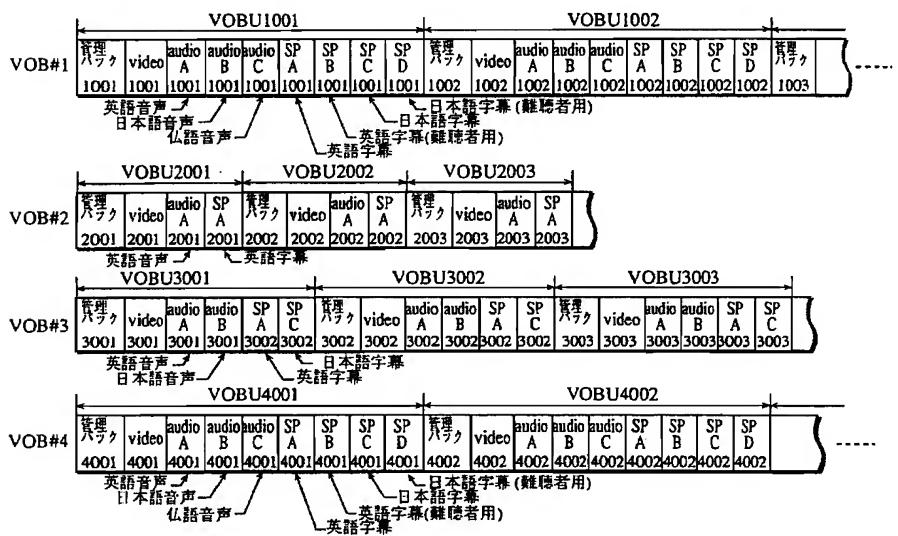
【図3】



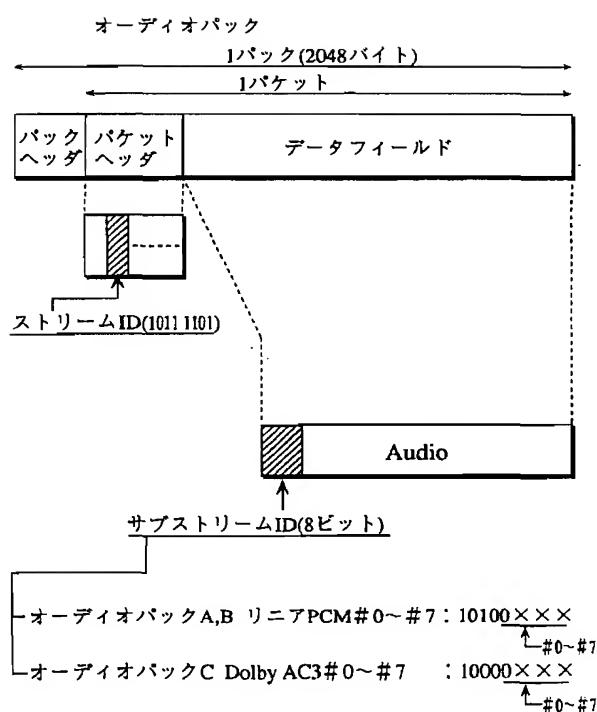
【図4】



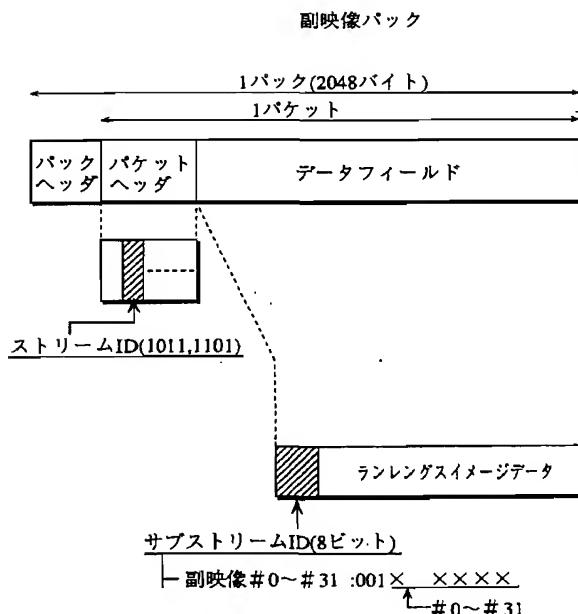
【图5】



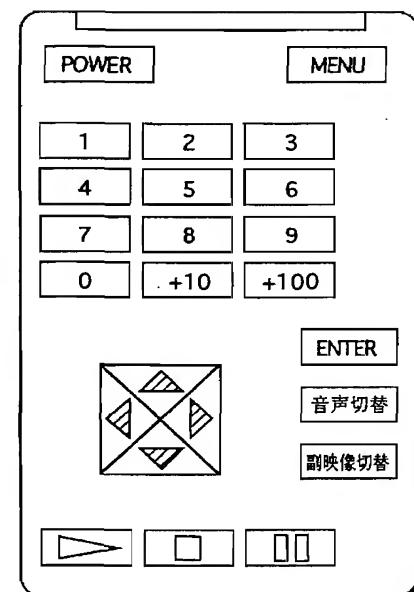
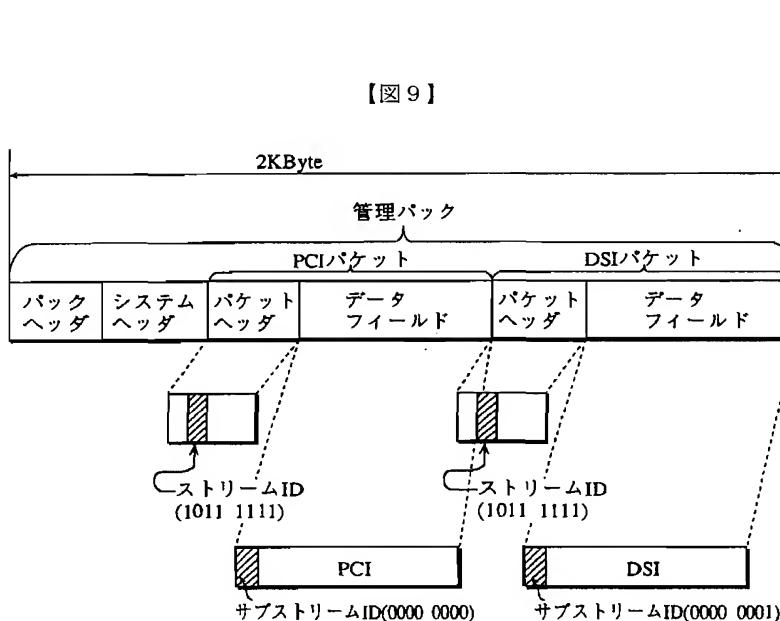
【図7】



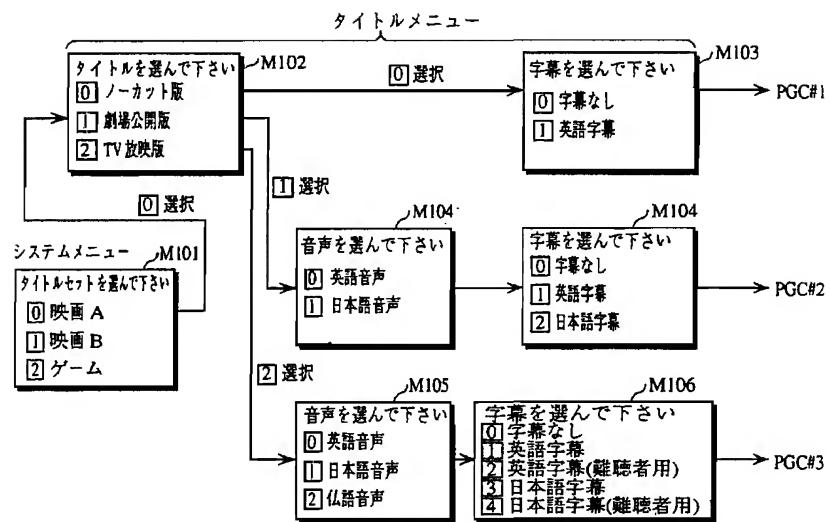
【図8】



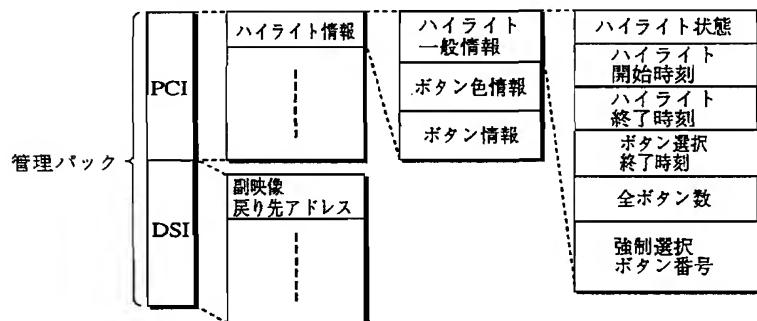
【図9】



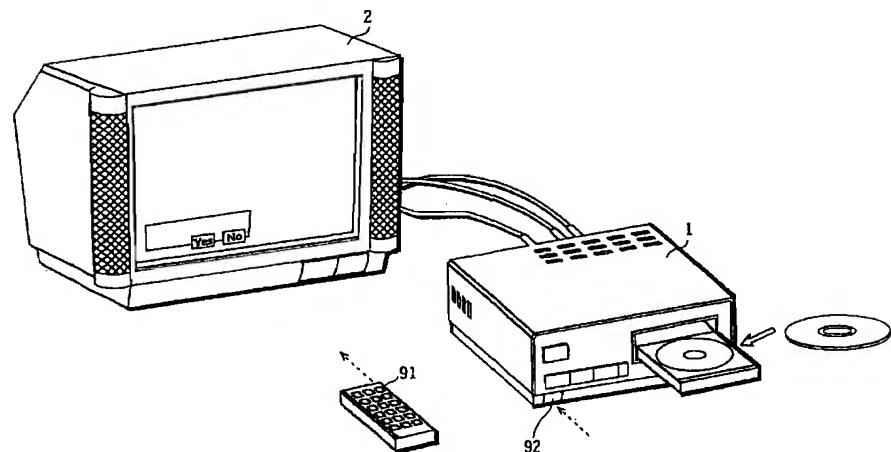
【図10】



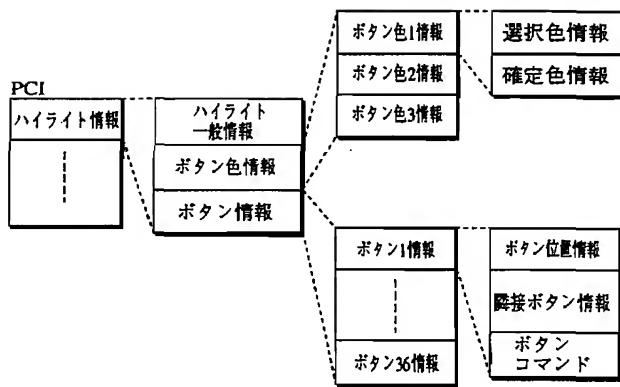
【図11】



【図18】



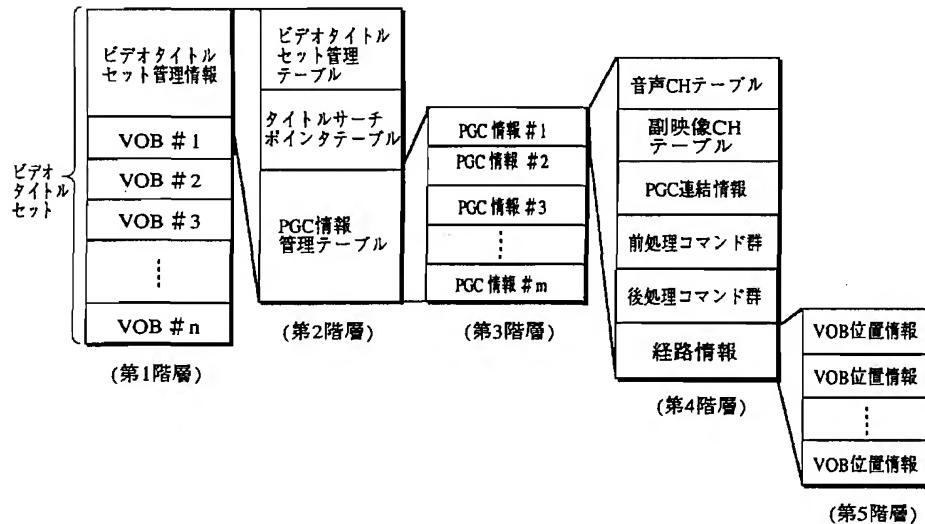
【図12】



【図13】

オペコード	オペランド	概要
SetSTN	論理音声チャネル番号、論理SPチャネル番号、SPフラグ	再生すべき論理音声チャネルと論理SPチャネルとを指定する。SPフラグはSP表示の有無を指定する。
Link	分歧先プログラムチェーン番号	指定されたプログラムチェーンに分歧する。
CmpReg Link	レジスタ番号、整数値、分歧条件、分歧先PGC番号	レジスタと整数値とを比較し、分歧条件に合致すれば分歧する。
SetReg Link	レジスタ番号、整数値、演算内容、分歧先PGC番号	レジスタ値と整数値とを演算し、分歧する。
SetReg	レジスタ番号、整数値、演算内容	レジスタに演算結果を格納する。

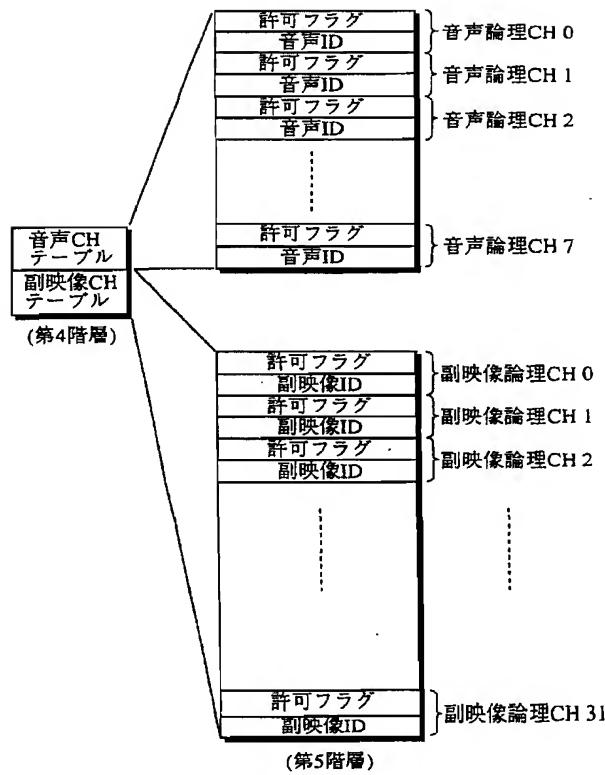
【図14】



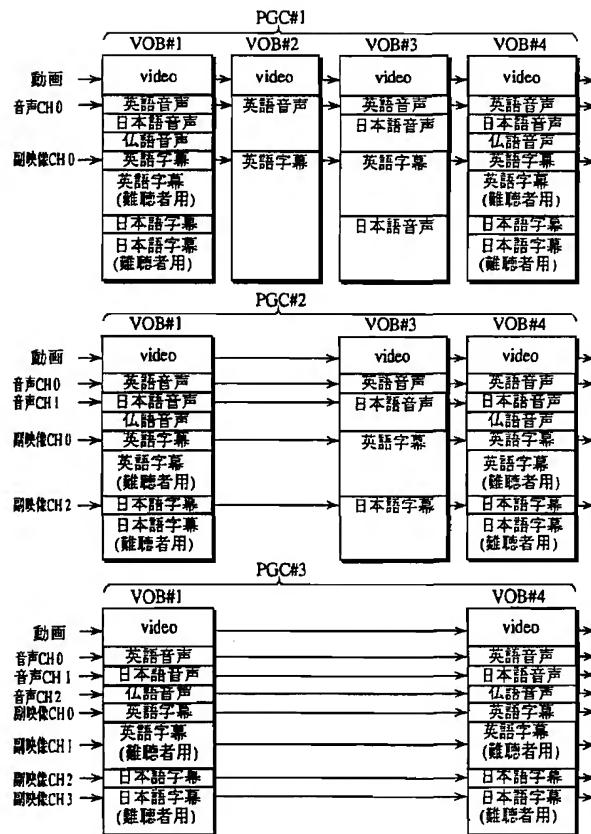
【図32】



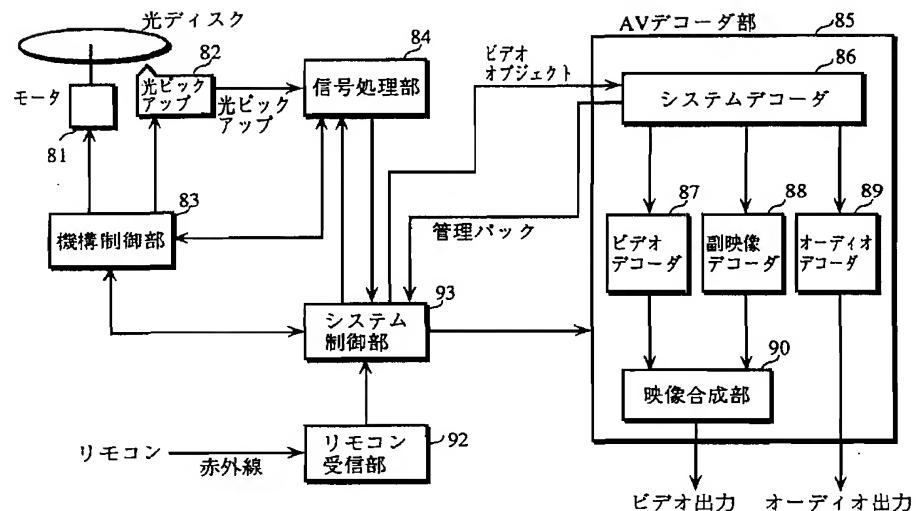
【図15】



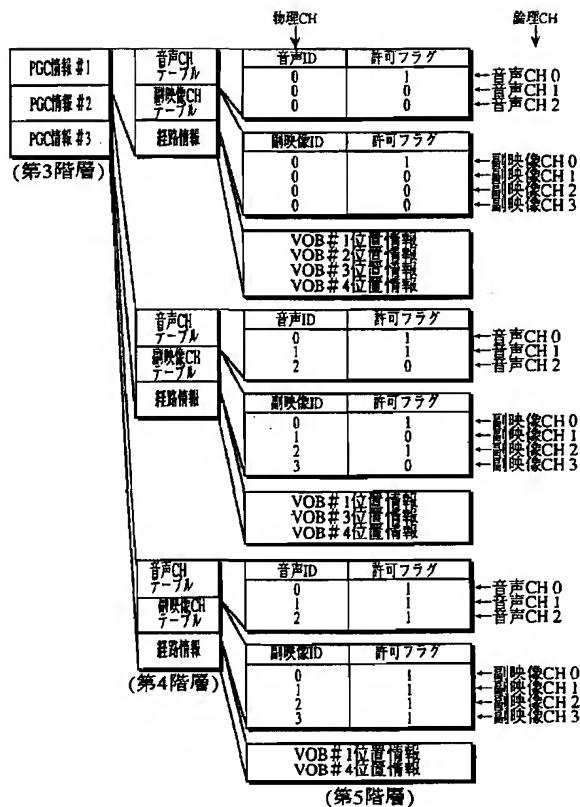
【図16】



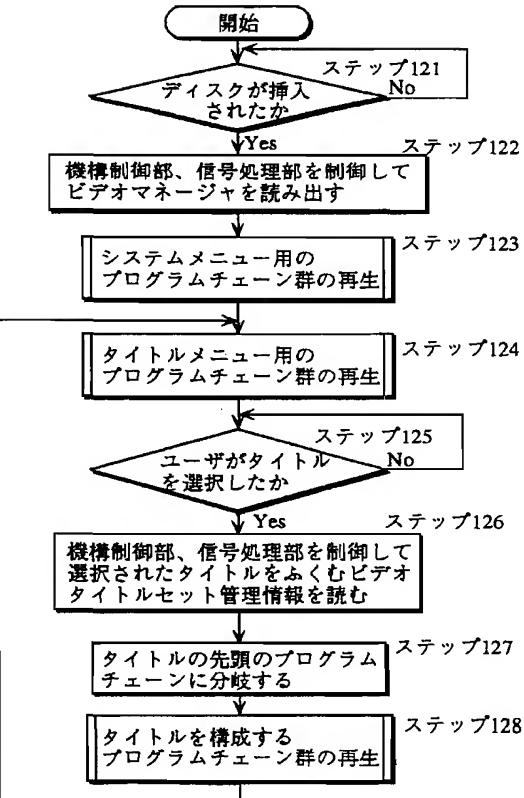
【図20】



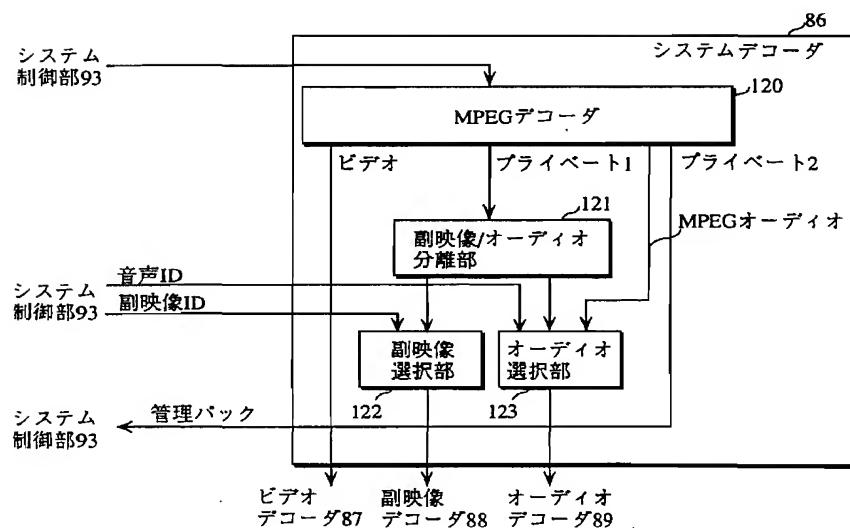
【図17】



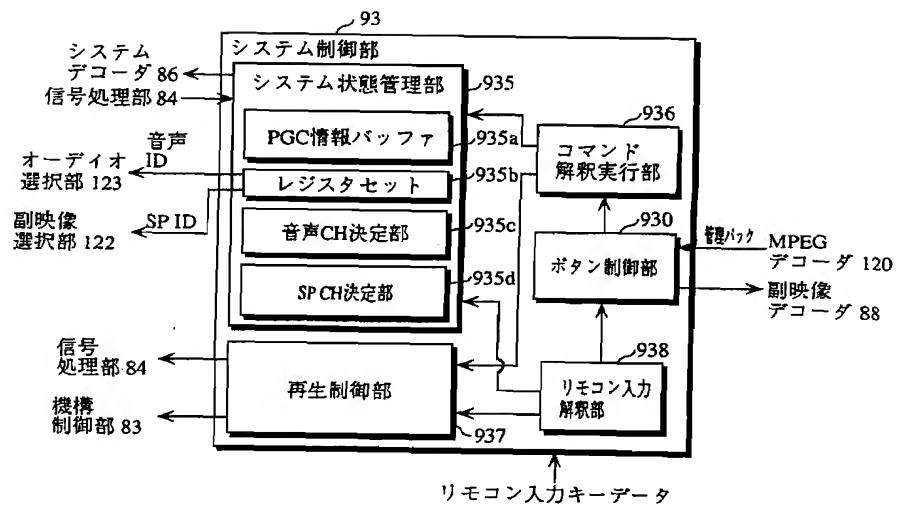
【図25】



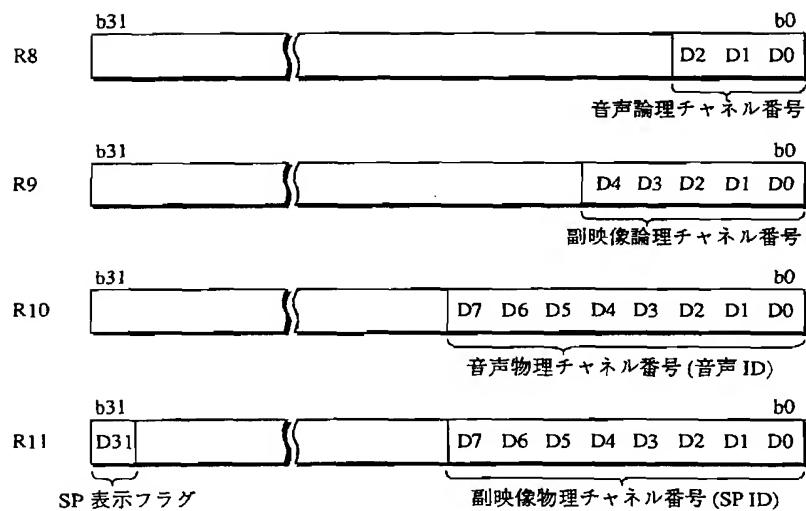
【図21】



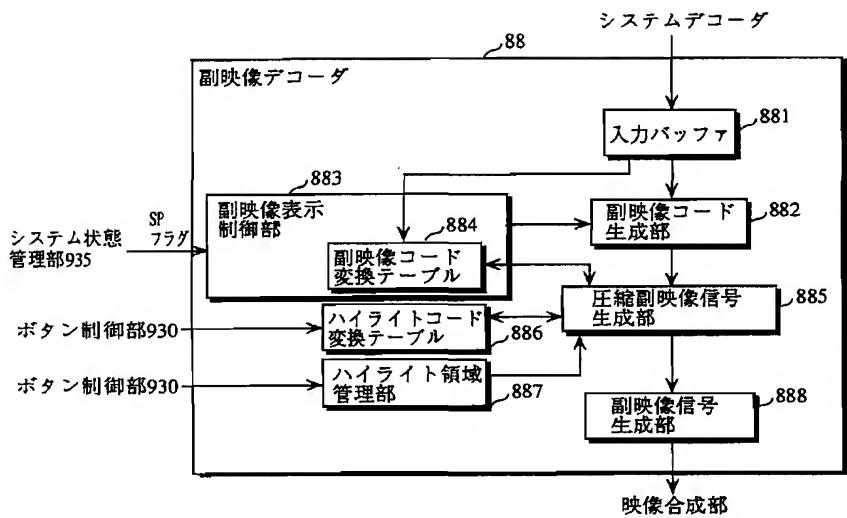
【图22】



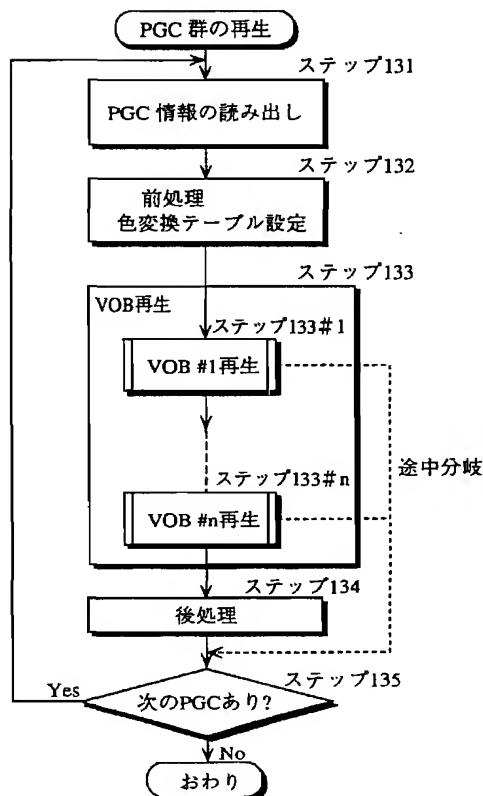
[図23]



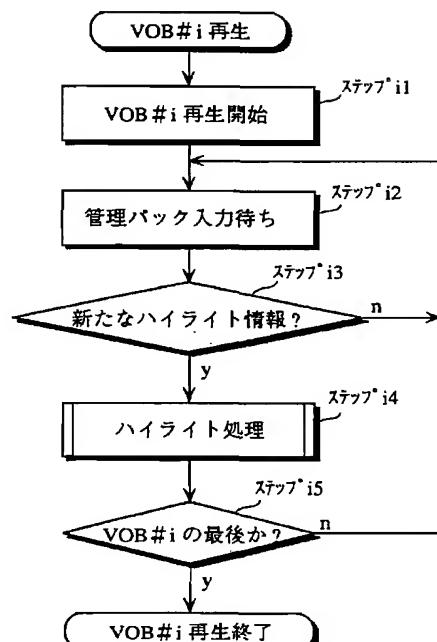
【図24】



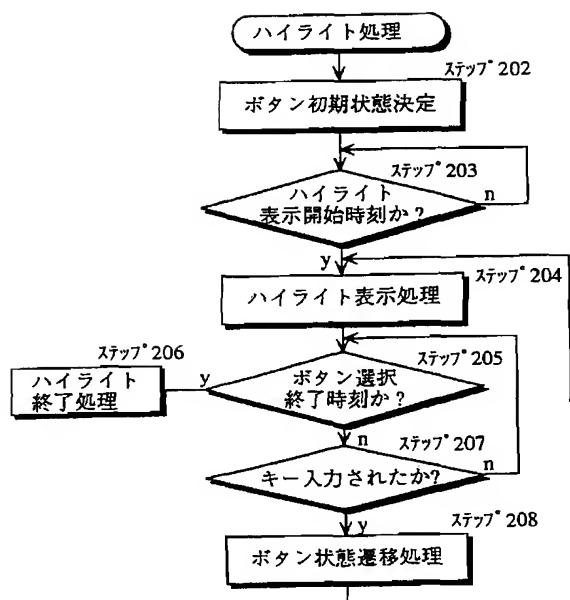
【図26】



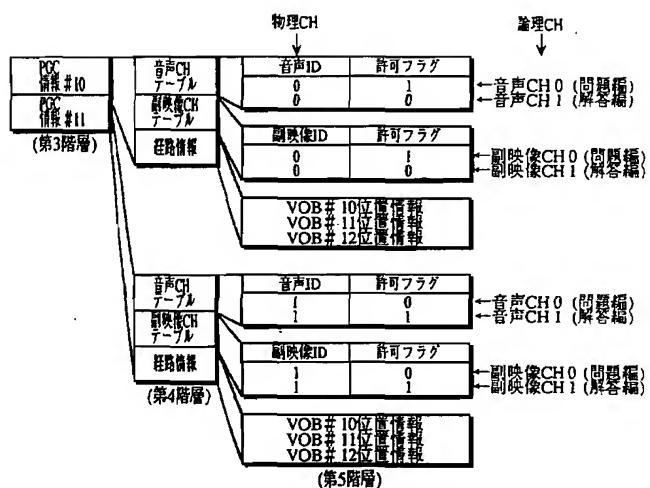
【図27】



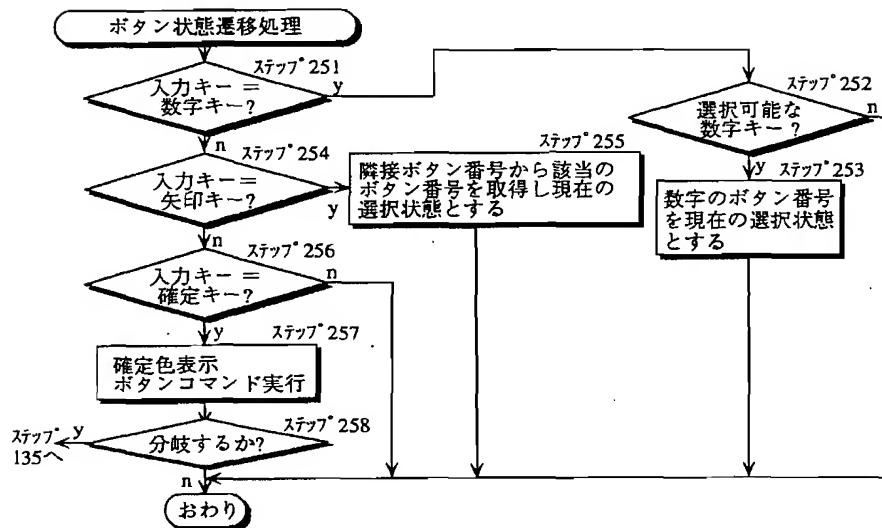
【図28】



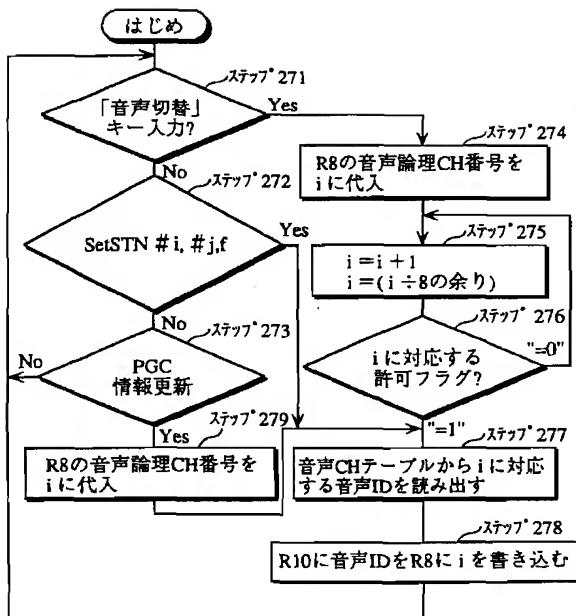
【図36】



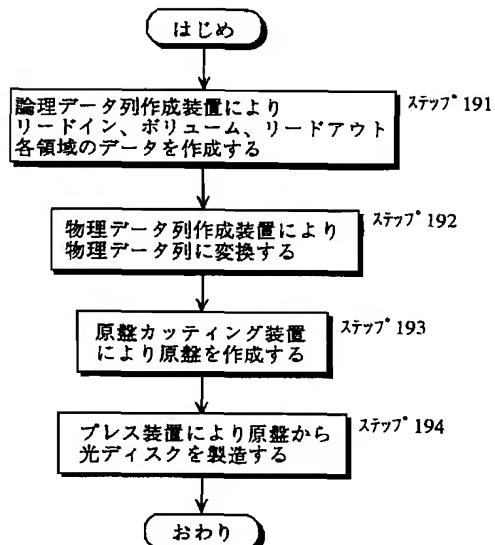
【図29】



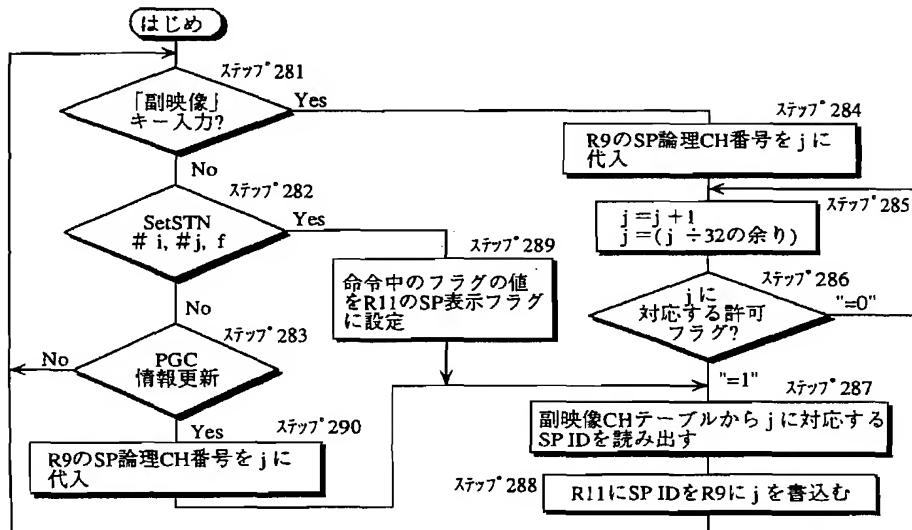
【図30】



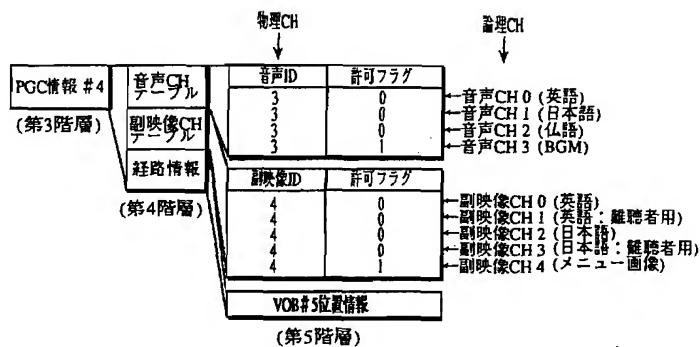
【図37】



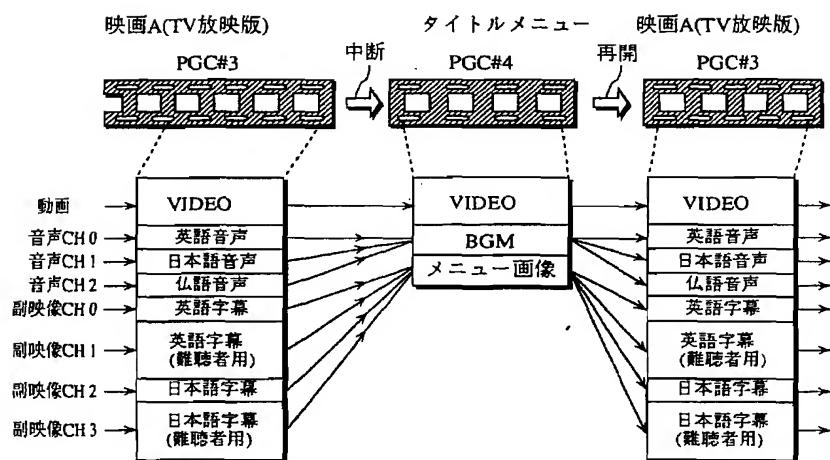
【図31】



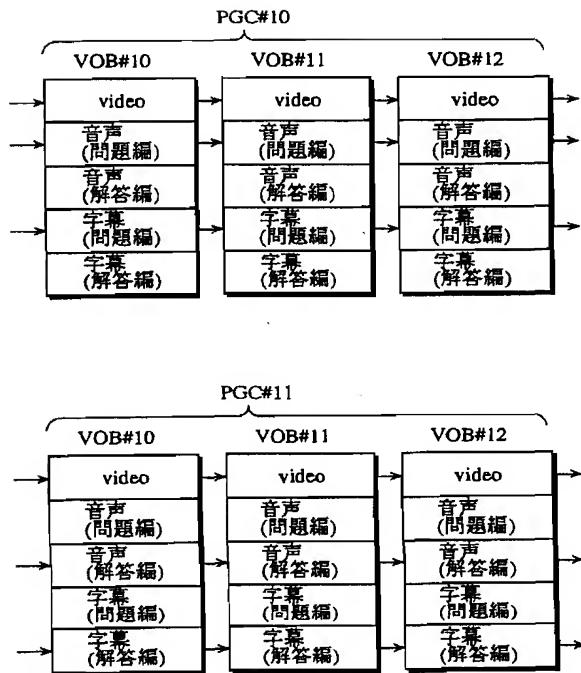
【図33】



【図34】



【図35】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7 識別記号
H 04 N 5/85
5/92

F I テーマ (参考)
H 04 N 5/85 Z
5/92 H

(72) 発明者 村瀬 薫
奈良県生駒郡斑鳩町目安367番地プレジー
ル栗原105号
(72) 発明者 佐伯 慎一
大阪府泉南郡岬町深日3163番地
(72) 発明者 三輪 勝彦
大阪府守口市八雲西町二丁目 6-402号

F ターム (参考) 5C052 AA02 AB03 AB04 CC11 DD04
DD06 DD10
5C053 FA24 FA30 GA11 GB06 GB11
GB12 GB37 JA01 JA21 LA06
5D044 AB07 BC03 CC06 DE18 DE49
DE57 DE58 DE60 DE81 EF05
FG18 GK12
5D110 AA15 AA29 BB01 DA04 DA12
DB05 DC02 DC16 DE01 EA06
EA12 EA17

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第4区分

【発行日】平成14年11月15日(2002.11.15)

【公開番号】特開2002-245753 (P2002-245753A)

【公開日】平成14年8月30日(2002.8.30)

【年通号数】公開特許公報14-2458

【出願番号】特願2001-358557 (P2001-358557)

【国際特許分類第7版】

G11B 27/00

20/10 311

321

20/12

103

H04N 5/85

5/92

【F1】

G11B 27/00 D

20/10 311

321 Z

20/12

103

H04N 5/85 Z

5/92 H

【手続補正書】

【提出日】平成14年8月6日(2002.8.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】 動画データとともに複数チャネルの音声データ、副映像データが記録された記録媒体、その再生装置、再生方法

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 データが記録された記録媒体であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に選一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリーブされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、

前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、

前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であることを特徴とする記録媒体。

【請求項2】 前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、

所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、

所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録されていることを特徴とする請求項1記載の記録媒体。

【請求項3】 記録媒体に記録されたデータを再生する再生装置であって、

前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に選一に再生されるべき複数の副データとがインターリーブ配置

され、前記副データには ID が付随しており、少なくとも 2 つの前記ビデオデータは、インターリープされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データの ID とを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であり、前記再生装置は、前記記録媒体から管理情報を読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出された 管理情報内のテーブルに示される副データの ID のうち、番号保持手段の論理番号に対応する ID を決定する決定手段と、読出手段により読み出された管理情報内の経路情報に従い、プログラムチェーンにより示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読出手段を制御する制御手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定された ID をもつ副データを選択する選択手段と、 読出手段によって読み出された 一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを備えることを特徴とする再生装置。

【請求項 4】 前記ビデオデータは、複数のユニットからなり、各ユニットは、所定時間単位の動画データと、その動画データと同時に再生されるべき副データであって、互いに異なる副データを有し、所属するユニット内のデータ再生中に有効であって、ユニット内の動画データと同時に再生されるべき何れかの副データを論理番号で指示するコマンドを含む制御情報が記録され、前記再生装置は、前記制御情報中のコマンドにより指示される論理番号を保持手段に保持することを特徴とする請求項 3 記載の再生装置。

【請求項 5】 記録媒体に記録されたデータを再生する再生方法であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報を含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に選択一に再生されるべき複数の副データとがインターリープ配置され、前記副データには ID が付随しており、少なくとも 2 つの前記ビデオデータは、インターリープされる前記副データの数が互いに異なっており、

前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データの ID とを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であり、前記再生方法は、前記記録媒体から 管理情報を読み出す読出手段と、読出手段によって読み出された管理情報内のテーブルに示される副データの ID のうち、予め定められていない論理番号に対応する ID を決定する決定手段と、読出手段により読み出された管理情報内の経路情報に従い、プログラムチェーンにより示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読出手段を制御する制御手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定された ID をもつ副データを選択する選択手段と、 読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを有することを特徴とする再生方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マルチメディアデータが記録された記録媒体、再生装置および再生方法であって、特に映画アプリケーションにおける再生機能の向上に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】本発明の目的は、主たる動画データと音声や字幕などの複数の副データとからなる複数のビデオデータ記録でき、かつビデオデータ毎に副データのチャネル数やチャネル割当てが異なっていても、ビデオデータ間で副データを容易に管理することができる記録媒体、その再生装置及びその再生方法を提供することにある。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため本発明の記録媒体は、データが記録された記録媒体であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に一連に再生されるべき複数の副データとがインターリープ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリープされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であるように構成される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】本発明の再生装置は、前記記録媒体から管理情報を読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出された管理情報内のテーブルに示される副データのIDのうち、番号保持手段の論理番号に対応するIDを決定する決定手段と、読出手段により読み出された管理情報内の経路情報に従い、プログラムチェーンにより示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読出手段を制御する制御手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを備える。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】本発明の再生方法は、前記記録媒体から管理情報を読み出す読出手段と、読出手段によって読み出された管理情報内のテーブルに示される副データのIDのうち、予め定められている論理番号に対応するIDを決定する決定手段と、読出手段により示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読出手段を制御する制御手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを備える。

ステップによって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを有する。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0126

【補正方法】変更

【補正内容】

【0126】

【発明の効果】本発明の記録媒体は、データが記録された記録媒体であって、前記データは複数のビデオデータと管理情報とを含み、各ビデオデータは、動画データと、それと同時に一連に再生されるべき複数の副データとがインターリープ配置され、前記副データにはIDが付随しており、少なくとも2つの前記ビデオデータは、インターリープされる前記副データの数が互いに異なっており、前記副データは、音声データと副映像データとの何れかであり、前記管理情報は、一連に再生すべきビデオデータを示すプログラムチェーンを指定する経路情報と、前記プログラムチェーンが示すビデオデータに対し、前記副データの論理番号と前記副データのIDとを対応させたテーブルを有し、前記論理番号は前記プログラムチェーンが示すビデオデータで共通に割当てられた番号であるように構成される。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0129

【補正方法】変更

【補正内容】

【0129】この構成によれば、ビデオデータの再生の途中に上記コマンドにより副データを切り替えることができる。本発明の再生装置は、前記記録媒体から管理情報を読み出す読出手段と、予め定められた論理番号を保持する番号保持手段と、読出手段によって読み出された管理情報内のテーブルに示される副データのIDのうち、番号保持手段の論理番号に対応するIDを決定する決定手段と、読出手段により読み出された管理情報内の経路情報に従い、プログラムチェーンにより示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読出手段を制御する制御手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定されたIDをもつ副データを選択する選択手段と、読出手段によって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択手段によって選択された副データと共に再生する再生手段とを備える。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 1 3 0

【補正方法】 削除

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 3 2

【補正方法】 変更

【補正内容】

【0 1 3 2】 この構成によれば、ビデオデータの再生の途中に上記コマンドにより副データを切り替えることができる。本発明の再生方法は、前記記録媒体から管理情報を読み出す読み出ステップと、読み出ステップによって読み出された管理情報内のテーブルに示される副データの

I Dのうち、予め定められている論理番号に対応する I Dを決定する決定ステップと、読み出ステップにより読み出された管理情報内の経路情報に従い、プログラムチーンにより示される一連のビデオデータを順次読み出すよう読み出ステップを制御する制御ステップと、読み出ステップによって読み出された一連のビデオデータに含まれる複数の副データから、決定された I Dをもつ副データを選択する選択ステップと、読み出ステップによって読み出された一連のビデオデータに含まれる動画データを、選択ステップによって選択された副データと共に再生する再生ステップとを有する。